愛媛県総合科学博物館研究報告　Bulletin of Ehime Prefectural Science Museum，No.16（2011）, p. 81 － 119

原　著

鉱山絵葉書からみた産業史に関する考察
～ 1900－1930年代の新居浜市惣開地区周辺について～

吉 村　久 美 子 *

Research on the Industrial History by Using Mine Picture Postcards
～ Especially Focusing on Soubiraki Area in Niihama City, Ehime in 1900-1930's ～

YOSHIMURA Kumiko

Abstract：Besshi Copper Mine, Ehime Prefecture, was one of the most outstanding copper mines in Japan, which had been operated for 283 years (1691 to 1973) and produced 650,000 tons of copper during the period. With the development of mining technology and the enlargement of its scale, various industries such as chemistry, machinery and electric power came from it in the seaside area named Soubiraki in Niihama City, and expanded dramatically by forming industrial complex at the beginning of the twentieth century. The present prosperity of Niihama Seaside Industrial Zone is based on that mining technology including ore mining, dressing and smelting. We feel the necessity to bring the detail in the development in this area. However, few photographs telling us its rapid industrial development from the latter Meiji Era to the beginning of Showa Era (1900-1930) have been left. In this research, we used some old picture postcards published in that period to understand the industrial development of the Niihama region in detail. These picture postcards are valuable because they show us the regional development of the Niihama City in detail during the period. Revealing of the contents of the photographs enables us to understand the detailed current of the history of Niihama City which advanced tightly related to Besshi Copper Mine and the running company, Sumitomo Group. In this research, we have consulted a huge number of old documents and maps, and investigated the industrial facilities in the photographs and the time when they were taken.

キーワード：産業史，絵葉書，新居浜市，住友，別子銅山
Key words: Industrial history, Picture postcard, Niihama city, Sumitomo, Besshi copper mine

は　じ　め　に

日本には，かつて産業近代化の礎となった鉱山が数多く存在した．愛媛県新居浜市には，1691年から1973年までの283年間稼業した“別子銅山”があった．明治末から昭和初期, 別子銅山を母体として様々な産業が生まれ，数十年のうちに臨海工業地帯が形成されていった．しかし, その急激な発展を遂げた初期の様子を伝える写真は，多くは残されていない．ちょうど同じ明治末から昭和初期にかけ，日本では絵葉書ブームが興っていた．その絵葉書には名所旧跡だけでなく，財閥が抱える鉱山の雄姿を捉えた風景も写っている．絵葉書に写るその風景を考察することにより，住友・別子銅山とともに歩んだこの地域の時代の流れを，より詳細に把握する事ができると考えた．

本稿では，新居浜市の臨海工業地帯発祥の地である惣開周辺の絵葉書を取り扱った．古記録や古地図等と照らし合わせ，絵葉書に写る建物や当時の状況，写真の撮影年代を中心に考察を行ったので，ここに報告する．

絵葉書について

日本に絵葉書ブームが起こったのは，明治末である．明治37年9月12日に日露戦争を取材した「明治37年戦没紀年郵便絵葉書第1回6種1組」が発行され，戦況の好転とあいまって人気を博した[1]．明治39年5月6日には，戦没紀念絵葉書の最後のシリーズが発行され，絵葉書ブームは最高潮に達した[2]．発売局の前には，夜半から行列

＊愛媛県総合科学博物館　学芸課　産業研究科
Curatorial Division, Ehime Pref. Science Museum

ができ朝には万を超す人々が長蛇の列をつくり，警官が出動して整理にあたった[3]ほどであった．その絵葉書ブームに乗り，日本各地の鉱山でも絵葉書が発行された．別子銅山も例外ではなく，多くの絵葉書が発行されたと思われるが，その全貌は明らかになっていない．

本稿では，鉱山絵葉書コレクターである井上真治氏所蔵の絵葉書及び愛媛県歴史文化博物館所蔵の絵葉書（灘口氏による寄託資料）について考察する．井上真治氏は，日本の鉱山絵葉書集として自ら論文もまとめており，足尾銅山・日立鉱山・西澤金山・小坂鉱山については報告済みであるが，別子銅山に関しては筆者に全てを託していただいた．また，歴史文化博物館の絵葉書は灘口慎之氏による寄託資料であり，「愛媛県歴史文化博物館 資料目録第15集 灘口コレクション」においても公開されている．

絵葉書の発行については，別子銅山記念館[4]に確認をとったところ，住友別子鉱業所及び住友金属鉱山株式会社の絵葉書発行に関する記録は残っていなかった．だが，絵葉書写真の撮影年を考察する際は，絵葉書宛名面からその発行時期を知ることができる．郵便規則は年を追って改正されてきた．昭和初期までのその変遷を表1に示す．宛名面の仕切り線の有無やその位置，また「はかき」・「はがき」の違いから発行時期が分かる（図1）．よって発行期限が分かると，写真が撮影されたのはそれより前と年代が絞られてくるが，他の鉱山絵葉書に関する論文[5]にもあるように，仕切り線の無い絵葉書は要注意である．仕切り線の無い絵葉書は，通常明治40年以前の発行のはずであるが，明らかに大正時代撮影の写真が写っているものも存在するからである．このような絵葉書に関して，前述論文は「（仕切り線が）3分の1から2分の1に切り替

表1　郵便規則の変遷

年　月　日			改正内容
明治 6年	（1873）	12月　1日	郵便葉書が初めて発行される
明治32年	（1899）	2月　13日	国内では認められていない私製葉書の使用について，民間製造葉書の外国郵便への使用のみが認められる
明治33年	（1900）	9月　17日 10月　1日	私製葉書の制式を告示 郵便法，同規則・関係規程等施行
明治38年	（1905）	6月　20日	通信日附印規程を制定，櫛型通信日附印が誕生
明治40年	（1907）	3月　28日	郵便規則を改正し，郵便絵葉書オモテ面下部3分の1以内に通信文の記載を認める
大正 2年	（1913）	1月　10日	通信日附印規程を全面改正（施行4月1日～）「普通三等郵便局の日附印にすべて府県名を入れる・無集配郵便局の日附印の櫛形の中にあった星章を廃止する」等
大正 7年	（1918）	3月　1日	郵便規則を改正し，郵便絵葉書オモテ面記載部分を3分の1から2分の1に拡大
昭和 5年	（1930）	12月　1日	通信日附印の更植時間を減らし，1日5回に統一改正「前0-8・前8-12・後0-4・後4-8・後8-12」
昭和 8年	（1933）	2月　15日	通常葉書・往復葉書上部の「はかき」の表示を「はがき」に改正

郵政省郵務局郵便事業史編纂室．郵便創業120年の歴史．株式会社ぎょうせい，1991，237pp．より作成

明治40年（1907）3月28日～
下部3分の1以内に通信文
の記載が認められる

大正7年（1918）3月1日～
通信文記載可能範囲が
2分の1まで拡大される

昭和8年（1933）2月15日～
はかきの「か」の表記が
「が」に改正される

図1　絵葉書宛名面の変遷
郵政省郵務局郵便事業史編纂室．郵便創業120年の歴史．株式会社ぎょうせい，1991，237pp．より作成

わる時に発行された絵葉書か[6]」と推察しているが，現段階では推測の域を出ないと判断する．よって，以下の章「絵葉書の考察」においては，これを発行期限判断要素としては取り扱わないこととし，最後の章「おわりに」において，考察を包括した上での結論を付記することとする．

本稿で考察する絵葉書24点の原写真について，住友史料館[7]，新居浜市広瀬歴史記念館[8]，別子銅山記念館[9]に確認したが，いずれの館にも原写真は所蔵されていなかった．考察する絵葉書のリストを表2に，撮影地点を図2にまとめた．「絵葉書の考察」の章において，順に絵葉書に関する考察を述べる．

惣開周辺の概要

新居浜市の海岸に連なる臨海工業地帯，その発祥の地が惣開だった．現在の惣開周辺は，臨海工業地帯の一部として，住友金属鉱山株式会社，住友化学株式会社，住友重機械工業株式会社，住友共同電力株式会社等の工場が立ち並ぶ（写真1）．

写真1　現在の惣開周辺

明治中期，海岸に突如現れた工場，それが惣開製錬所（写真2[10]）であった．永年山で行われていた銅製錬であるが，明治21年から惣開で操業が開始された．明治26年

表2　絵葉書リスト

記号	図番号	写真面 タイトル	宛名面 英表記	発行等	はがき表記		仕切線	製作等	同綴	絵葉書所蔵	解説図番号
A	3	住友別子鑛業所新居濱肥料製造所	英文	青野	○	C	—	東製		井上真治	4
B	6	住友別子鑛業所新居濱肥料製造所	—	青野	○	—	—	東製	◇	博物館	
C	7	住友別子鑛山株式會社　新居濱製作所	—	—	○	P	1/2	—		井上真治	
D	9	住友別子鑛業所鑛石積載の景	—	青野	○	—	—	東製	◇	博物館	
E	10	住友別子鑛業所住友私立小學校海水浴場	英文	青野	○	C	—	東製		井上真治	
F	11	住友別子鑛業所私立惣開小學校ノ景	—	青野	○	—	—	東印		井上真治	
G	12	伊豫新居濱磯浦海海岸ノ景	—	青野	○	—	—	東製	◇	博物館	13
H	14	別子住友鑛業所惣開全景	英文	—	○	C	1/3	※		博物館	15
I	17	住友別子鑛業所惣開全景	英文	—	○	U　C	1/3	日製※		博物館	
J	18	住友別子鑛業所全景	—	—	○	C	1/3	—		井上真治	
K	19	住友別子鑛業所惣開全景	英文	青野	○	P	1/3	東製		井上真治	20
L	21	住友別子鑛業所新居濱惣開全景	—	青野	○	—	—	東製	◇	博物館	22
M	23	（別子銅山）惣開全景	—	—	○	C	1/2	—		井上真治	24
N	25	住友別子鑛山株式會社　惣開全景	—	—	○	P	1/2	—		井上真治	26
O	28	住友別子鑛山株式會社　新居濱選鑛工場	—	—	○	P	1/2	—		井上真治	
P	29	住友別子鑛業所電氣分銅ノ景	—	青野	○	—	—	東製	◇	博物館	
Q	31	（新居濱名所）住友鑛山會社電氣分銅工場	—	大正	○	C　U	1/2	—		井上真治	
R	32	（別子銅山）電氣製銅所内部	—	—	○	U　C	1/2	—		井上真治	
S	33	住友別子鑛山株式會社　電錬工場	—	—	○	P	1/2	—		井上真治	
T	34	住友別子鑛業所事務所ノ景	—	青野	○	—	—	東製	◇	博物館	
U	36	（新居濱名所）住友別子鑛山株式會社本館事務所	—	大正	○	C　U	1/2	—		井上真治	
V	37	（新居濱名所）住友病院	—	大正	○	C　U	1/2	—		井上真治	38
W	40	伊豫新居濱惣開町ノ景	英文	青野	○	U　C	1/3	東製		井上真治	42
X	43	伊豫新居濱住友銀行支店及惣開所	—	青野	○	—	—	東製		井上真治	44

英表記　英文：英文表記有り
発行等　青野：（新居濱惣開町　青野雑貨店發行）
　　大正：（大正堂書店）
はがき表記 ○：郵便はかき
　　●：郵便はがき（“か”に濁点あり）
　　C：CARTE POSTALE
　　U：Union Postale Universelle
　　P：POST CARD
仕切線　1/3：通信スペース1/3（発行：明治40年～大正7年）
　　1/2：通信スペース1/2（発行：大正7年～昭和8年）
製作等　東製：東京精美堂製
　　東印：東京精美堂印刷
　　日製：日本葉書會製
　　※：写真面同タイトル及び「青野雑貨店發行」明記
同　綴　◇：同一綴り
所蔵 井上真治　：井上真治氏所蔵
　　博物館：愛媛県歴史文化博物館所蔵（灘口慎之氏寄託）

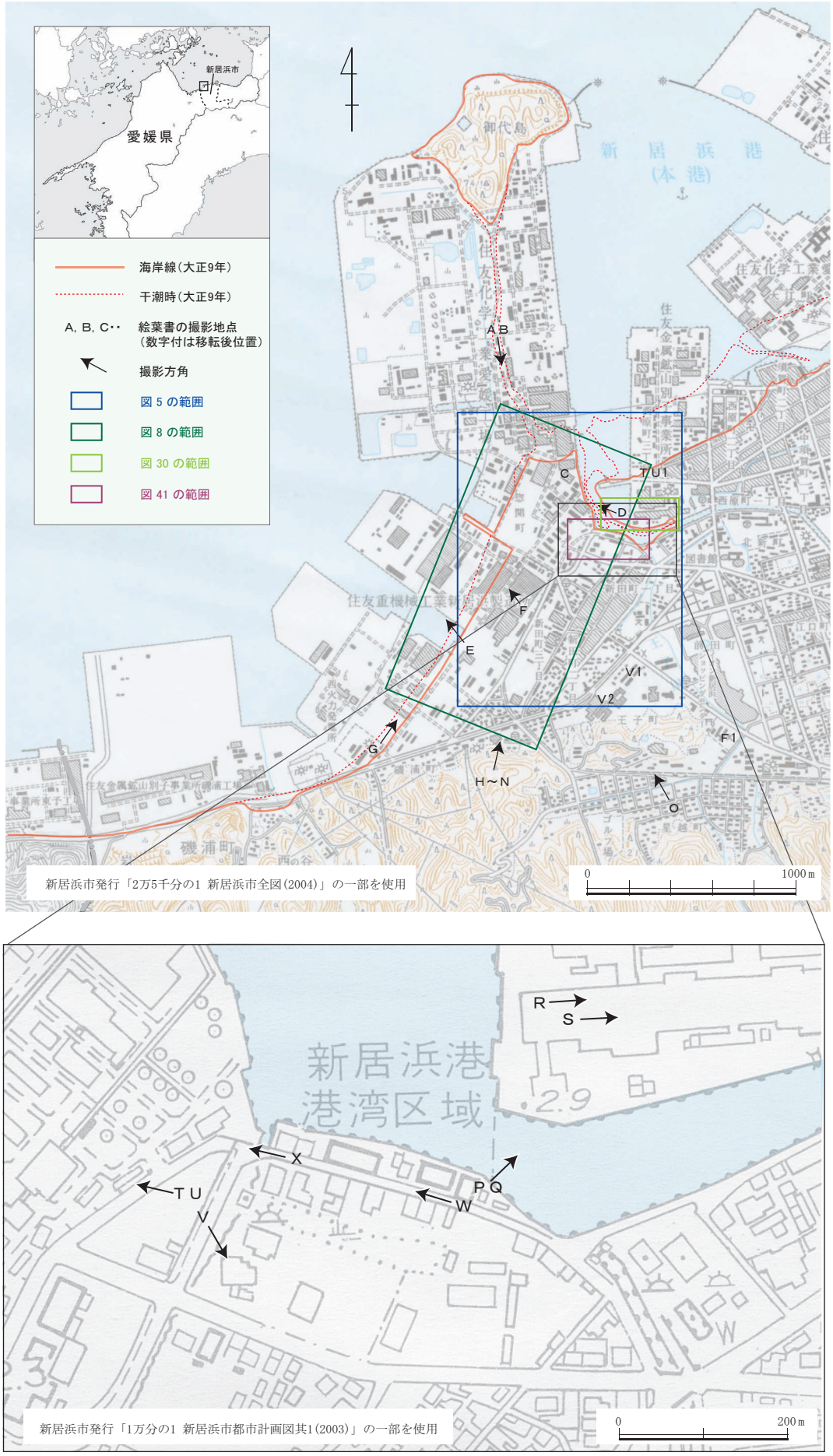

図2　絵葉書写真の撮影地点及び撮影方角（愛媛県新居浜市惣開周辺）

別子鉱山鉄道（写真3）が敷設され，明治32年には別子鉱業所本部が旧別子から惣開へ移転し，さらに重要な拠点となる（写真4・写真5）．明治33年，別子鉱業所機械課（現住友重機械工業株式会社）の近代的な工場が完成し，明治37年末には火力発電所（現住友共同電力株式会社）も建設された．煙害問題により製錬所は四阪島へ移転され，明治37年末，惣開製錬所での銅製錬は終結した．明治43年には，火力発電所が増設される．大正2年，製錬時に出る亜硫酸ガスから硫酸・過燐酸石灰を製造するため，住友肥料製造所（現住友化学株式会社）が設立され，工場建設が進められた．大正8年，新居浜電錬工場が完成し電気銅の生産を開始，大正11年，四阪送電用の海底ケーブル敷設，大正14年，新居浜選鉱場が完成，選鉱法が改良された．また同じ大正14年，化学部門が株式会社化され独立し，昭和5年には窒素工場が完成する．昭和に入り，銅山なき後を見据えた都市計画により，新居浜港湾整備・工場用地造成が遂行され，昭和9年には機械部門が株式会社化され鉱山から独立した．昭和10年，アルミニウム製錬工場及び第二火力発電所完成．惣開から始まった工業地帯化は，昭和に入り瞬く間に拡大し高度経済成長期を迎えさらに飛躍した．見違える重化学工業地帯へと発展を遂げた惣開周辺は，現在も工場が林立し新居浜市の年間製造品出荷額は1兆円に届こうとしている．

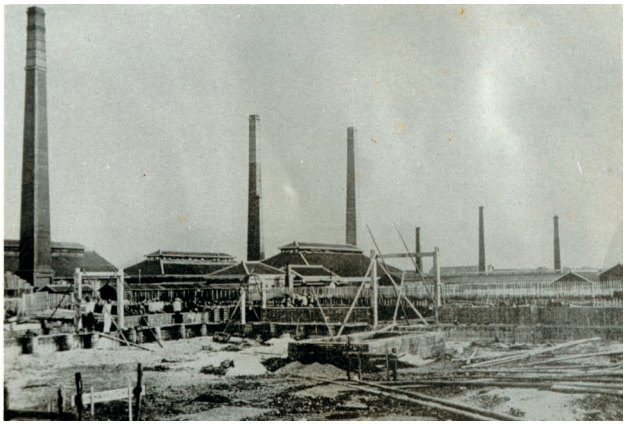

写真4　明治31年頃の惣開製錬所
愛媛県総合科学博物館所蔵（茅原和久氏寄贈）

写真5　明治30年代の惣開製錬所　住友史料館所蔵

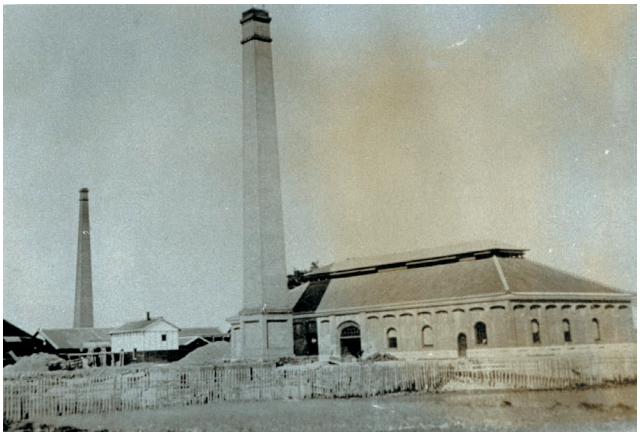

写真2　明治23年頃の惣開製錬所
愛媛県総合科学博物館所蔵（茅原和久氏寄贈）

写真3　明治31年頃の新居浜運輸課停車場　（惣開駅）
愛媛県総合科学博物館所蔵（茅原和久氏寄贈）

絵葉書の考察

A　住友別子鑛業所新居濱肥料製造所

The manufactory of manure Niihama Sumitomo Besshi Mining.

絵葉書 A（図3）には，正面に住友肥料製造所が写っている．住友肥料製造所は，現在日本有数の総合化学メーカー住友化学株式会社の草創期の姿である．現在の住友化学株式会社の事業分野は，基礎化学，石油化学，精密化学，情報電子化学，農業化学など多岐にわたり，連結子会社143社，従業員27,828名，売上高1兆6,209億円（2009年度）[11]の大企業となっている．当時の住友別子鉱業所は，銅鉱石製錬時に発生する亜硫酸ガスの煙害問題に直面していた．明治21年から操業していた惣開製錬所にかわり，明治38年に四阪島へ製錬所を移すも煙害は解消されず，問題は深刻化していた．そのような中，全体からみると若干量ではあるが，煙害を抑える一つの方策とし

図3　絵葉書A　住友別子鑛業所新居浜肥料製造所

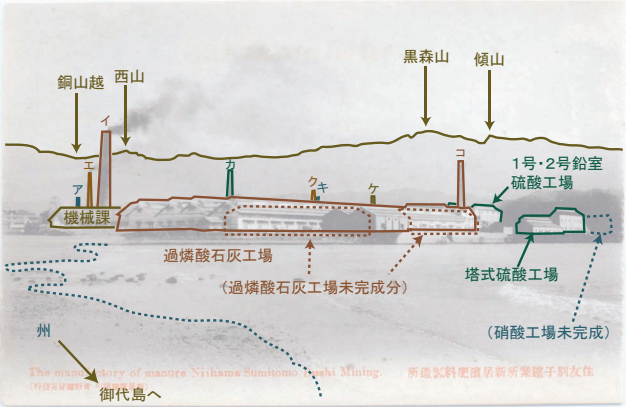

図4　絵葉書A解説図

て，煙害の原因となる硫化鉱を四阪島から引き取り，これから硫酸・過燐酸石灰をつくる肥料製造所の創設が計画された．これが住友化学の発祥であった．大正2年9月22日に設立された住友肥料製造所は，工場敷地に7.8haがあてられ，同年11月から工場の建設に着手した．しかし，大正3年7月に第一次大戦が勃発したため，技術導入を予定していたハルトマン社（ドイツ）の技師の来日も機械類の輸入も不可能になりそうになった．そこで，肥料製造所は，塔式硫酸工場の建屋が完成しただけで工事を中止，鉛室硫酸工場に計画を切り替えた[12]．大正4年8月硫酸工場の鉛室1基が完成し21日から運転を開始，続いて過燐酸石灰工場も9月3日から運転に入った[13]．過燐酸石灰（写真6）を初出荷したのは大正4年10月4日のことであったが，売り出しの日から注文が殺到し，鉛室1基では応じきれないため，大正5年には鉛室3基とした[14]．ちょうど写真には，4号塔式硫酸工場の建屋と1号2号鉛室硫酸工場の建屋，そして過燐酸石灰工場が写っているが，3号鉛室硫酸工場の建屋と過燐酸石灰工場の西側建屋はまだ完成していない．まだ建てられていない建屋を図4内に点線で示す．よって大正4年10月から大正5年の間に撮影されたことが分かる．この未完成建屋を含めた第一期の計画が全て完成したのは，大正6年3月[15]である（写真7）．住友史料館所蔵の大正9年の地図（図5）でも第一期計画完成建屋を確認することができるため，新居浜肥料製造所の建屋を色付きで示す．その後，住友肥料製造所は，大正10年2月26日に組織を改め「住友合資会社肥料製造所」となり，大正14年6月1日には住友合資会社の直営から株式会社に改め，「株式会社住友肥料製造所」となった[16]．昭和3年11月臨時窒素工場建設部を設け計画を進め，新しく埋め立ての完了した敷地に窒素工場建設の鍬を入れたのは昭和4年6月，窒素工場の第1期全工場完成は昭和5年12月であった[17]（写真8）．さらに昭和9年には「住友化学工業株式会社」に社名変更している[18]．絵葉書には「住友別子鉱業所新居浜肥料製造所」とあるので，発行は大正10年2月26日以前の発行と考えられる．

肥料製造所は埋立地に建っているが，左の地面は州となって御代島へと続いている．この写真は州に立ち撮影されている．川から海に流れ込んだ土砂が潮の流れにより島まで堆積し，潮が引くと大きな州が海面から現れ，御代島まで歩いて行くことができた[19]．昭和初期，御代島は海藻が多くチヌ等の魚がよく獲れるので，一般の人も自由に州を渡って魚釣りに行っていた[20]．住友銀行（絵葉書Xにて詳述）の東側を通ると，肥料部裏の通用門手

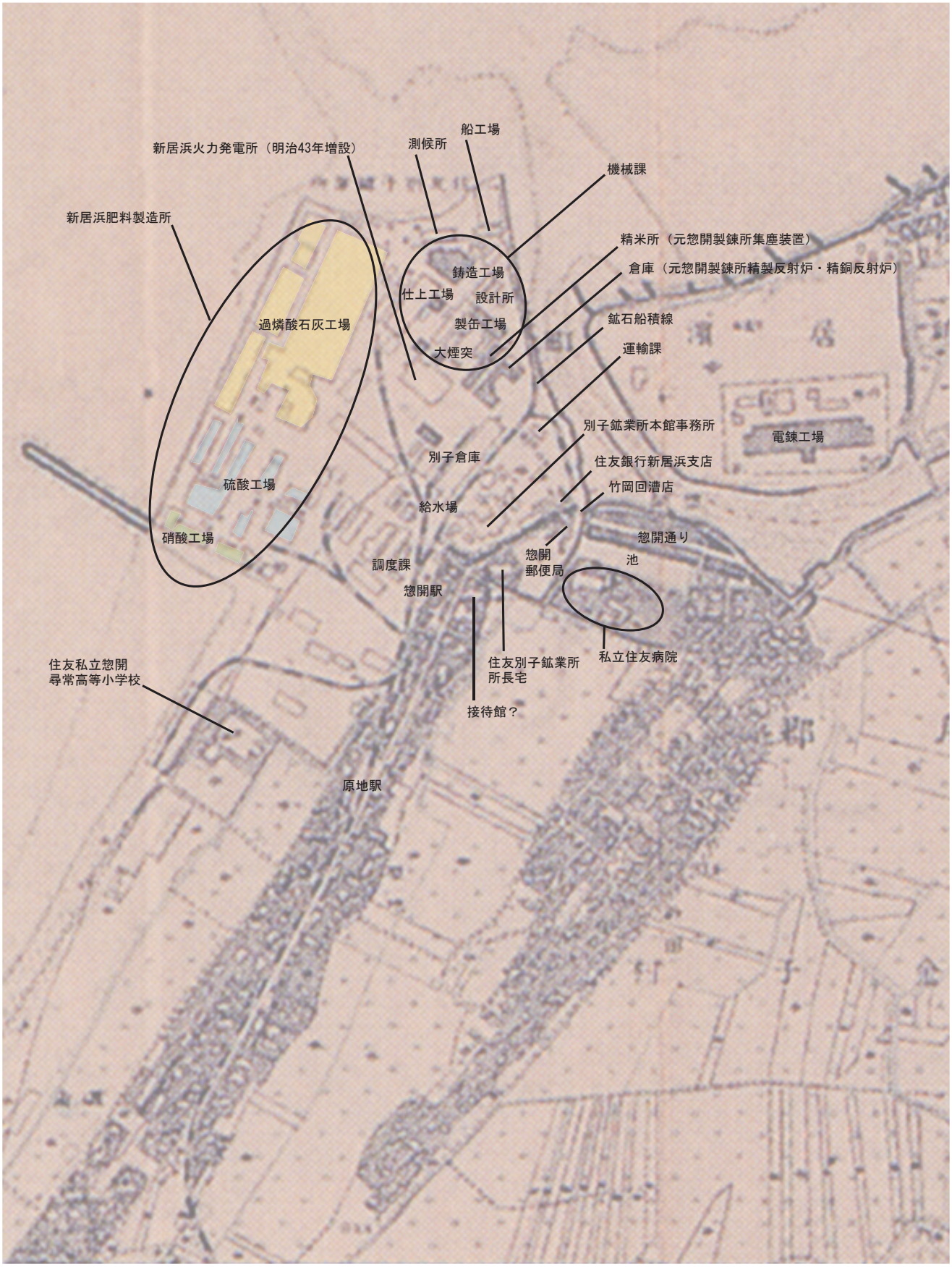

図5　惣開周辺（大正9年）

住友史料館所蔵地図を背景に彩色し，名称（別子銅山記念館．別鉱山鉄略史．別子銅山記念館，1978，123pp．による）を加筆し作成

写真6　過燐酸90間倉庫　住友化学株式会社所蔵

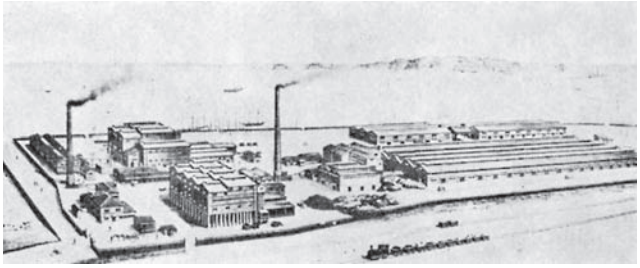

写真7　第1期計画完成図（大正6年3月）　住友化学株式会社所蔵

前の波打ち際から州へ通じる道があり，誰でも自由に通行できた[21]のである．

宛名面をみると，仕切線が確認できない．仕切線のない葉書を発行できるのは，明治33年から明治40年の間のはずである．しかし，写真に写っている工場の建設着工開始は，前述のとおり大正2年11月であるため，矛盾が

写真8　窯素工場第1期完成図（昭和6年）　住友化学株式会社所蔵

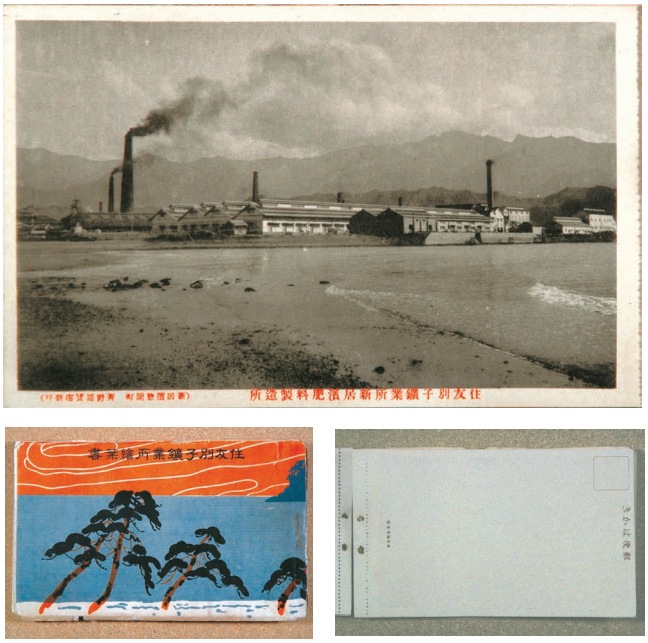

図6　絵葉書B　住友別子鑛業所新居浜肥料製造所

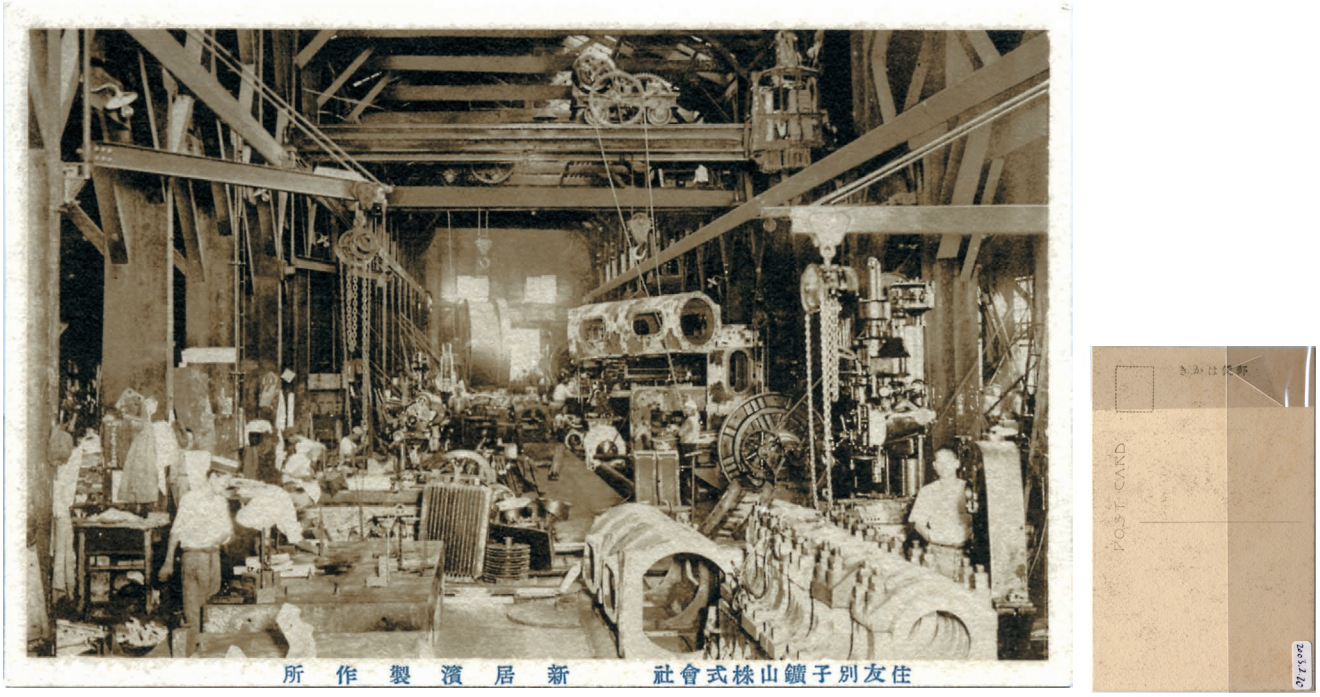

図7　絵葉書C　住友別子鑛山株式會社　新居浜製作所

生じている．後にも同様の絵葉書が出てくるが，前述「絵葉書について」の章で述べたとおり，発行時期不明絵葉書として取り扱う．以上より，この絵葉書の写真が撮影されたのは，大正4年10月から大正5年の間と推定される．

B　住友別子鑛業所新居濱肥料製造所

絵葉書B（図6）に使われている写真は，絵葉書Aと全く同じであるため，写真撮影推定年月も前述絵葉書A同様，大正4年10月から大正5年の間となる．この絵葉書は，愛媛県歴史文化博物館が所蔵しているが，灘口慎之氏による寄託資料[22]である．Aの写真面右端は切り取られた痕があり，綴られていたと思われるが，Bは切り取られる前の状態であり，「住友別子鑛業所繪葉書」に綴られている15枚のうちの1枚である．Bの宛名面もA同様仕切り線はない．撮影は大正時代でありながら，あるはずの仕切り線がみられない発行時期不明の絵葉書である．

C　住友別子鑛山株式會社　新居濱製作所

絵葉書C（図7）には，新居浜製作所の工場内が写っている．新居浜製作所は，現在の住友重機械工業株式会社の前身である．現在，従業員数約15,000人，年間売上高5,161億円[23]の大企業となっている住友重機械工業株式会社であるが，100年前は住友別子鉱業所内の部署の一つであった．明治26年，職員8名，工員60名の工作係であったが，明治27年に機械課に改組され昇格した．採鉱・選鉱・製錬・精製の全工程にわたり，設備・機械の設計，据え付け，修理の業務を担当した．写真には電灯が写っているが，工場内に電灯がついたのは，もう少し後である．明治35年6月端出場発電所（出力90kW/50サイクル）が新設され，新居浜製作所工場電灯，諸機械の電源等，惣開社宅，端出場工場等で電気が使われるようになった[24]．明治33年には，機械課の近代的な工場が製錬所北側敷地に完成する[25]が，別子銅山記念館所蔵の明治末頃の地図（図8）にも，その工場の配置が記載されている．機械課の工場を丸で囲み示す．この図8には，明治38年12月完成の発電所が点線で描かれているため，明治37年から明治38年11月の図面であることが分かる．別子鉱山機械設備の近代化が進む中，明治末に四阪製錬所が，そして大正に入り肥料製造所，電錬工場，四阪製錬所大改造，新居浜選鉱場，火力発電所等が建設されたが，機械課はその建設を担当し，修理をしながら独自の機械（交流モーター・直流発電機等）を製作するようになっていた[26]．大正9年，既に敷地1万坪，建坪2000坪，従業員500人，生産高400～500万円の規模の部署になっていた機械課であるが，別子鉱山の近代化のための建設作業も一段落したため，規模が拡大した機械課を縮小するか発展独立させるか，大問題になった[27]．このような中，昭和3年7月1日「新居浜製作所」を設立，独立採算制を確立し内売外売を基盤とする経営が開始されたが，この出発は，「やれるものならやってみろ，やれなきゃ修理工場に落とそう．」といったことであった[28]．折からの不況に直面し苦難の道を歩んだが，昭和7年以降日本経済が不況から脱し，製作所も受注増加，利益を計上できるようになったため，昭和9年11月1日に「住友機械製作株式会社」として独立した[29]．その後，磯浦鋳物工場を改築し，埋立て第5・6区の工場が拡張され，起重機・鉱山機械・電機品・一般産業機械の製造販売を行う[30]．社名も，昭和15年に「住友機械工業株式会社」，昭和44年には「住友重機械工業株式会社」へと変更していった．社名が「住

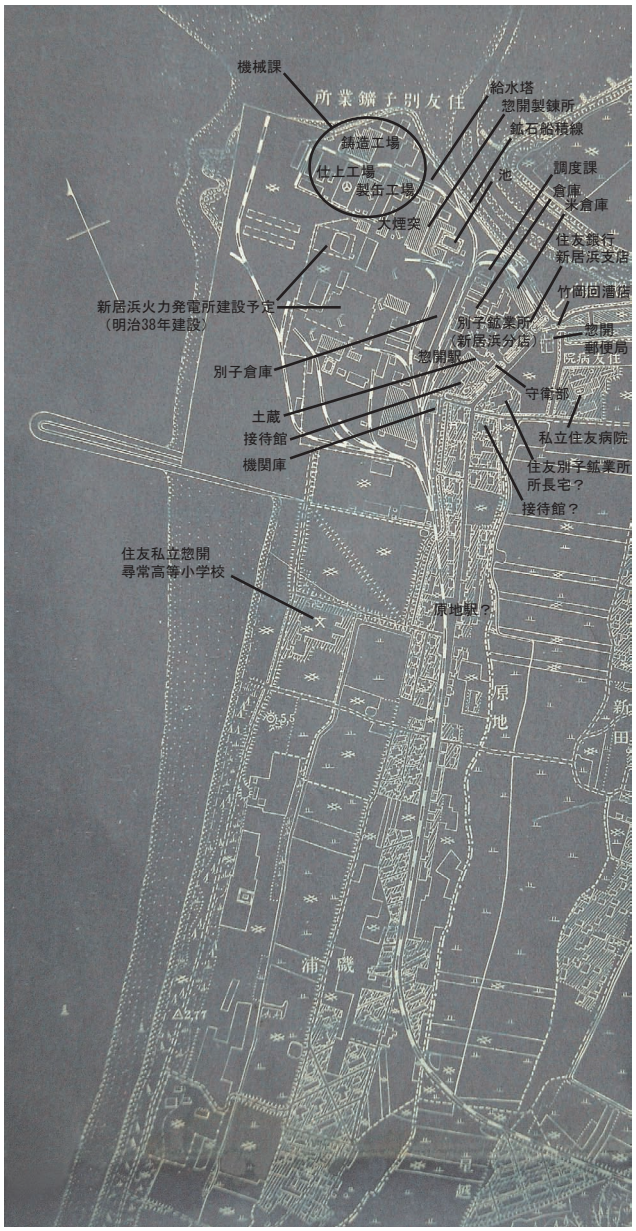

図8　惣開周辺（明治38年頃）
別子銅山記念館所蔵地図を背景に名称（末岡照啓．住友史料館報第29号．住友史料館，1998，p.41．及び別子銅山記念館．別鉱山鉄略史．別子銅山記念館，1978，123pp．による）を加筆し作成

図9　絵葉書D　住友別子鑛業所石積載の景

友別子鉱山株式会社 新居浜製作所」であったのは，昭和3年7月から昭和9年10月の間である．よって，独立採算制の下に新事業として育成されていたその時代が絵葉書に写っていると考えられる．

宛名面から分かる発行期間は，大正7年3月1日から昭和8年2月14日．以上より，写真が撮影されたのは，昭和8年2月14日以前と推定されるが，その中でも昭和3年7月以降の可能性が高いと考える．

D　住友別子鑛業所鑛石積載の景

絵葉書D（図9）には，鉱石積載用と思われる舟が写っている．明治37年，四阪島製錬所行きの鉱石船積用線路が敷かれ，昭和11年まで使われた[31]．昭和初期においても，この辺りには小型の舟が数多く係留され，四阪丸や御代島丸に連結されていた[32]．右に給水塔が写っているため，線路が敷かれていることが分かる．この給水塔は，惣開全景写真にもはっきりと写っているため，その年代を知ることができる．給水塔奥に写るのは，機械課の工場である．左から2番目に大煙突が写っているが，大煙突の手前（南東）に位置した溶鉱炉は明治38年に廃止され，ここも機械課の工場となった[33]．別子銅山記念館に所蔵されている図面（図8）には，発電所建屋が点線で記されている．左奥に写る建物は，その明治38年12月完成新居浜発電所の関連建屋ではないかと考えられるが，そう仮定すると，大煙突とその建屋の間に明治43年[34]に完成する増設された発電所建屋が写真に写っていないため，明治43年以前に撮影されたと考えられる．

この絵葉書Dは，セット綴り（B・D・G・L・P・T）である．よって，絵葉書Bで詳述したとおり，発行時期は不明である．以上より，確証は得られないが，写真が撮影されたのは，明治38年12月から明治43年の間と推定される．

E　住友別子鑛業所住友私立小學校海水浴場

The swimming place of Sumitomo private primary school, Sumitomo Besshi Mining.

絵葉書E（図10）には，海水浴をしている70人くらいの子どもが写っている．ハチマキの子どもがいるため，おそらく惣開小学校の水泳の授業だと思われる．明治35年から昭和8年までの間，磯浦の海岸沿いに惣開小学校（絵葉書F）があった．絵葉書H～Lでも確認できるように，その小学校のすぐ目の前は海で，以西には自然の砂浜と松林が続いていた．大正9年生まれの人物は，次のように語った．

「昭和の初め，新居浜の海岸は，まだほとんど自然の海岸でした．遠浅で，魚が驚くほどよく獲れていました．木で作った飛び込み台が，確か磯浦の海水浴場にあった

写真9　磯浦海岸水泳大会（明治39年）　新居浜市立惣開小学校所蔵

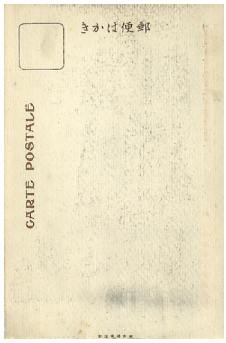

図10　絵葉書E　住友別子鑛業所住友私立小學校海水浴場

写真10　大正時代の水着姿　新居浜市立惣開小学校所蔵

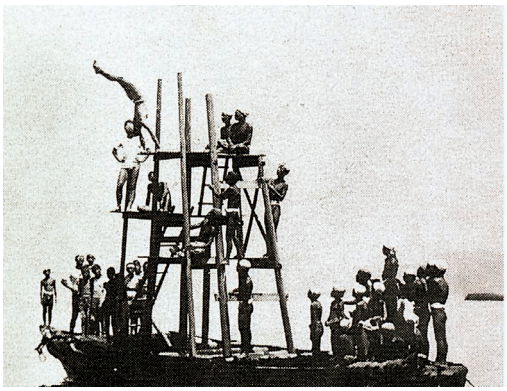

写真11　船飛び込み台　新居浜市立惣開小学校所蔵

ような気がします．[35]」

写真には，袖のある白っぽい水着を着ている女児やハチマキ（3種）をしている女児がおり，これは明治39年に撮影された写真9と同じであるが，白っぽい布に濃い色で縁取られた男児の水泳帽や色のついた女児の水着は，大正時代の水着姿として撮影された写真10のものと同じである．また，大正時代に撮影された写真11の船飛び込み台は，絵葉書に写る飛び込み台と同一であると思われる．よって写真は明治時代より大正時代に撮影された可能性が若干高いと考えられる．

宛名面に仕切り線はない．よって発行は明治40年3月28日より前のはずであるが，大正時代と思われる船飛び込み台や水着，水泳帽が写っており矛盾が感じられる．よって，絵葉書A等と同様，発行時期は不明とする．以上より，写真が撮影されたのは明治35年8月から大正時代の間と推定されるが，若干大正時代の可能性が高いと考えられる．

F　住友別子鑛業所私立惣開小學校ノ景

絵葉書F（図11）には，惣開小学校が写っている．写真は，北西を望んだ風景で，小学校の向こうは海である．撮影地点は図2－Fのとおりで，小学校があった場所には，現在，住友重機械テクノフォート株式会社の工場がある．明治28年7月，私立別子尋常高等小学校（別子山中）の惣開分教室が新居浜に設置され，その後新居浜の発展に伴い，明治33年1月，惣開分教室は私立惣開尋常高等小学校となった[36]．明治28年の創立から昭和初期までの沿革は，表3の通り．絵葉書に写る校舎は，磯浦海

図11　絵葉書F　住友別子鑛業所私立惣開小學校ノ景

表3　惣開小学校の沿革

年	「惣開小学校の沿革」記載内容	「創立百周年記念誌惣開」記載内容	「住友別子鉱山史」記載内容	図2内の位置
明治28年	5月16日私立宇摩郡別子尋常高等小学校として尋常科のみ設置	6月20日接待館敷地　宇摩郡別子尋常高等小学校分教場（尋常科4年生）	7月私立別子尋常高等小学校惣開分教室を設置	
明治31年		11月27日住友私立惣開尋常高等小学校として独立，敷地拡張		
明治32年	4月高等科併置	高等科併置		
明治33年	11月27日独立して私立惣開尋常高等小学校となる		1月惣開分教室から私立惣開尋常高等小学校として独立	
明治35年	8月改築移転，9月園芸□科加設，唱歌科加設	8月校舎を磯浦海岸に移転		
大正6年	1月20日御真影奉戴，6月15日中萩村鹿森に鹿森分教場を置く			F
大正14年	6月3日理科室副築	8月理科準備室改築，教室改造		
昭和8年	4月1日尋常科に手工科加設，9月29日現在の地に移転	10月10日住友重機械工場設立のため王子町1の3の現在地へ移転		F1

写真12　校舎全景（明治35年）　新居浜市立惣開小学校所蔵

写真13　磯浦海岸最後の運動会（昭和８年）
新居浜市立惣開小学校所蔵

写真14　現在の惣開小学校

岸時代の惣開小学校であるため，明治35年8月から昭和8年の間の撮影であることが分かる．校舎が竣工間もない頃の写真12には，敷地内に樹木がまだほとんどみられず，校舎横にわずかにある樹木も絵葉書Fと比べるとかなり低い．よって絵葉書Fは竣工年である明治35年に撮影された可能性は低く，明治36年以降の撮影と考えられる．この当時，明治35年の県内の小学校数は，613校であるが，そのうち公立は609校，私立は住友の4校のみであった[37]．明治28年開校当初の児童数は47名であったが，明治35年には289名，昭和8年には400名に増加している[38]．磯浦海岸時代最後の年の昭和8年の写真13には，300名以上の児童と松並木が写っているおり，絵葉書の写真はこの昭和8年頃でもないことが分かる．昭和に入ると児童

図12　絵葉書G　伊豫新居濱磯浦海海岸ノ景

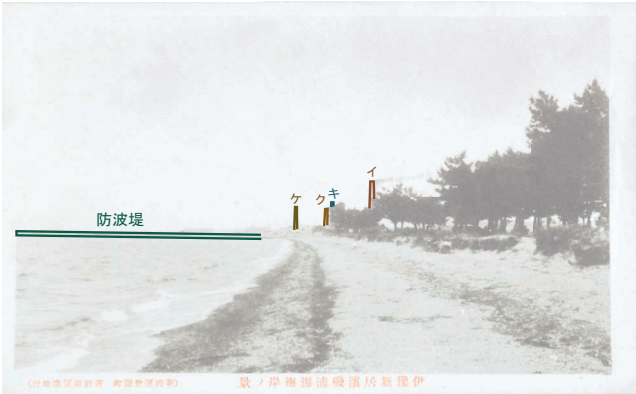

図13　絵葉書G　解説図

数も増え海岸も本格的に埋立てが進んできたため，この写真10が撮影された年を最後に，惣開小学校は王子町（図2－F1）へと移転，昭和36年には公立に移管され現在（写真14）に至る．現在の惣開小学校は，住友私立として誕生した歴史を持つ唯一の小学校となった．大正14年6月，理科室が副築されている．これは，絵葉書Nにおいても校舎の増築が確認できるが，この絵葉書にはまだ写っていないため，大正14年6月以前に撮影されたことが分かる．また，惣開全景の絵葉書Hの考察より，運動場の南に木が植えられたのは明治39年頃（明治38年～明治39年11月）であることが分かる．明治39年頃以降の写真にはその木が写っているが，絵葉書Fの左端にはまだそれがみられないため，明治39年頃より前の撮影であると考えられる．

写真15　絵葉書Gの現在

宛名面に仕切り線はない．よって発行は仕切線がない最も古い時代に発行されたと考えられ，絵葉書の発行期限は明治40年3月27日．また，本稿で取り扱う24枚のうち12枚に東京精美堂の名が宛名面でみられるが，この絵葉書Fのみ「東京精美堂印刷」と記されており，他の11枚は全て「東京精美堂製」であった．よって絵葉書Fは，書式が確立されていない絵葉書発行初期（明治30年代）のものではないかと考える．以上より，写真が撮影されたのは，明治36年から明治39年11月の間と推定される．

G　伊豫新居濱磯浦海海岸ノ景

絵葉書G（図12）には，海岸線が写っている．磯浦海岸には美しい松並木があり，北西側は自然の海岸だった[39]．図2－G付近には，その当時のものと伝えられている老松（写真15）が現在も残っている．大正9年7月に矯正製図された住友史料館所蔵の図5をみると，惣開小学校の北西側（海岸側）に別子鉱山鉄道の線路が敷かれている．これが写真にはみられないため，大正9年7月以前の撮影であることが分かる．また，大正2年新居浜肥料製造所の建設工事が始まったが，大正3年7月に第一次世界大戦が勃発したため塔式硫酸工場の建屋が完成しただけで工事は中止された[40]．写真には，その塔式硫酸工場の建屋も写っていないため，大正3年7月より前の撮影と考えられる．煙が出ている煙突は，惣開製錬所時代から使われている大煙突であると考えられる．煙突については，絵葉書Hにおいて詳述するが，この絵葉書Gに写る煙突（記号）は左から煙突ケ・ク・キ・イであると考える（図13）．正面煙突ケ辺りから左に延びる防波堤は明治38年築港であるため，明治38年以降の撮影であることも分かる．

この絵葉書Gは，セット綴り（B・D・G・L・P・T）である．よって，絵葉書Bで詳述したとおり，発行時期は不明である．以上より，写真が撮影されたのは，明治38年から大正3年7月の間と推定される．

H　別子住友鑛業所惣開全景

The View of Sōbiraki in Sumitomo Besshi Mining.

絵葉書H（図14）には，惣開全景が写っている．磯浦には明治35年8月に移転された惣開小学校があり，右端には明治36年2月16日[41]に完成した2階建の惣開郵便局が写っているため，明治36年以降の撮影であることが分かる．それらの位置を図15に記す．煙突には，右から順に記号「ア・イ・ウ・・・」を付けた．煙突イは，大阪鉱山監督署から明治31年通達されていた改善工事命令に従い明治33年4月に竣工完成させた高さ63.63mの大煙突である[42]．よって明治33年4月以降の写真である．明治37年12月，四阪島製錬所の完成により新居浜惣開製錬所の役目は終わるが，大煙突はそのまま残された．四阪島で製錬が開始されるため，明治37年には四阪島製錬所行きの鉱石船積用線路が敷かれ，昭和11年まで使われた[43]．図15には，大煙突の右側に写る給水塔より，鉱石船積用線路が敷かれていることが分かるため明治37年以降の写真と考えられる．異なる方角から撮影した別の写真（絵葉書A他）を用い，図16のとおり煙突の位置を割り出した．明治38年完成[44]の突堤も写っている．明治38年12月には製錬所横に火力発電所が建設され[45]，明治39年1月から発電が開始された[46]．その出力規模は，110kWと360kW[47]だった．その火力発電所の建屋が写っているため，明治38年12月以降の撮影であることが分かる．別子銅山記念館に所蔵されている図8は，明治37年から明治38年11月頃と推定したが（絵葉書Cにおいて詳述），図面に写る社宅の配置と絵葉書Hに写る社宅の配置が全く同じであることから，この頃の写真であることが裏付けられた．明治39年頃の撮影とされる住友史料館所蔵の写真16をみると，この絵葉書Hとほぼ同じであるが，惣開小学校運動場南に樹木が植えられている点が異なる．絵葉書Hにはその樹木がみられないため写真16（明治39年頃）より前に撮影されたことが分かる．またそれ以降の写真には写っているため，明治39年頃の植樹であることも分かった．その樹木の位置を図15に点線で記す．写真16は，住友史料館所蔵「住友別子鉱業所写真帳」収録の15枚のうちの1枚であり，写真帳には，東延・第三通銅・東平・四阪島・新居浜の各施設が写されている[48]．“明治39年頃”という根拠について，住友史料館から次のように回答があった．「明治39年11月の四阪島製錬所落成式に配布された写真帳がおそらくこれであると考えられるため，こ

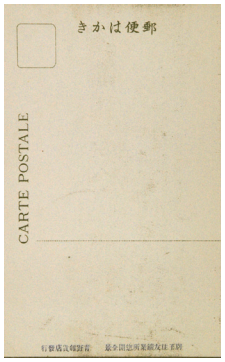

図14　絵葉書H　別子住友鑛業所惣開全景

図15　絵葉書H　解説図

の写真を明治39年頃と記している．[49]」よって，この“明治39年頃”は，明治38年から明治39年11月の間を指していることになる．

宛名面から分かる発行期間は，明治40年3月28日から大正7年2月28日，よって写真が撮影されたのは大正7年2月28日以前である．以上より，写真が撮影されたのは，明治38年12月から明治39年11月の間と推定されるため，この絵葉書Hは撮影年と発行年が明らかに異なることが分かる．

写真16　明治39年頃の惣開地区　住友史料館所蔵

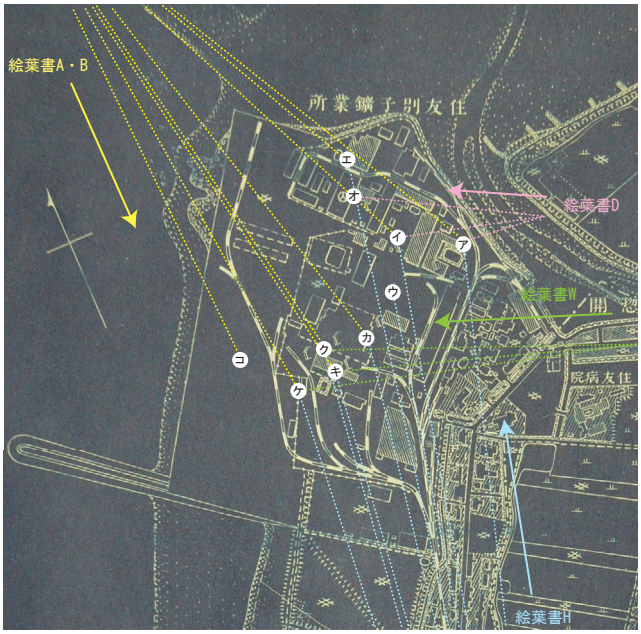

図16　煙突位置図
別子銅山記念館所蔵地図（明治38年頃）を背景に煙突を加筆し作成

図17　絵葉書I　住友別子鑛業所惣開全景

I　住友別子鑛業所惣開全景

The View of Sōbiraki in Sumitomo Besshi Mining.

絵葉書I（図17）には，惣開全景が写っている．絵葉書宛名面の仕切線位置から分かる発行期間は，明治40年3月28日から大正7年2月28日である．また，宛名面には「日本葉書會製」と記されており，この表記は絵葉書AからXの24枚のうち，この1枚のみであった．もう一つ特徴として，宛名面に発行先と写真タイトルの文字が記されている．宛名面に記されているのは，24枚のうち絵葉書HとIの2枚のみであり，最も古い明治30年代の表記法の一つかもしれないと考えた．写真のみをみると，絵葉書Hの数分後に撮影された写真であることが分かる．理由は，建物や田畑の配置・形状の他，盛土の位置や影に至るまで全く同じでありながら，道を歩く人々や煙突の煙に動きが見られるからである．よって写真が撮影されたのは，絵葉書H同様の明治38年12月から明治39年11月の間と推定される．

J　住友別子鑛業所全景

絵葉書J（図 18）の下側には，惣開全景が写っている．この絵葉書のようにカラフルにデザインされたものは珍しい．上側には「別子山運輸課　経理課　銀行　調度課之景」と記されているが，旧別子の写真である．絵葉書宛名面から分かる発行期間は，明治40年3月28日から大正7年2月28日．下側の全景の写真をみると，絵葉書Iと全く同一の写真が使われている．よって写真が撮影されたのは，絵葉書H・I同様の明治38年12月から明治39年11月の間と推定される．

K　住友別子鑛業所惣開全景

The view of Sōbiraki in Sumitomo Besshi Mining.

絵葉書K（図19）には，惣開全景が写っている．潮が引くと海面から大きな州が現れ，御代島まで歩いて行くことができたが，その州がこの写真ではみることができる．社宅には鯉のぼりが泳ぎ，田に水が張られているため，節句の頃と思われる．明治41年4月には「硫酸及肥料製造に関する利益見積書」が作成され住友肥料

図18　絵葉書J　住友別子鑛業所全景

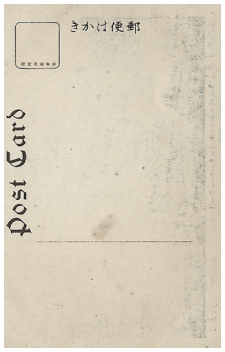

図19　絵葉書K　住友別子鑛業所惣開全景

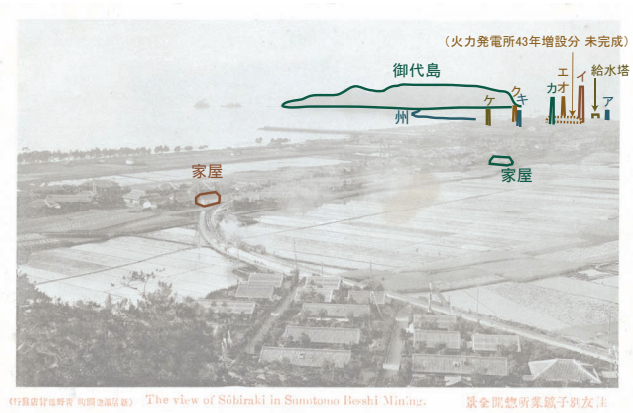

図20　絵葉書K　解説図

写真17　明治43年完成の新居浜火力発電所
住友共同電力株式会社所蔵

製造所建設の検討が始まった[50]．住友肥料製造所が大正2年に設立・建設開始されるまでに数年を要したが，肥料製造工場が立ち並ぶ予定敷地が明治期に既に埋め立てられている様子をこの写真でみることができる．発電所は，明治末年々増加する需要に応ずるため110kWを廃止し1500kWを増設，最大出力1860kWの住友最初の近代式大容量火力発電所となった[51]．この新居浜発電所の増設は明治42年10月申請，明治43年工事を完了して使用を開始[52]したが，2年後に落成する端出場水力発電所とともに，明治末から大正年間にかけて急増する電力需要に対応し，大量出鉱体制に貢献した．絵葉書には，大煙突西側に位置したその増設後の発電所レンガ建屋が写っていないため，明治43年以前の撮影であることが分かる．そのレンガ建屋の位置を図20内に点線で記す．この発電所の増設準備のためその位置にあった1本の煙突（煙突ウ）が撤去された様子が伺える．絵葉書H・I・J に写っている煙突ウがこの絵葉書ではみられない．よって発電所増設前の明治42年から43年にかけて撮影された可能性が高いと考える．絵葉書H・I・J と比較し，増えた家屋を図20内に緑字で記す．また明治39年頃の写真16と比較し，増えた家屋を図20内に赤字で記す．赤字で記した家屋は，大正昭和の惣開全景写真でも見られるため，この絵葉書Kは明治39年頃より後に撮影されたことが分かる．

宛名面から分かる発行期間は，明治40年3月28日から大正7年2月28日．以上より，写真が撮影されたのは，明治39年頃から明治43年の間と推定されるが，その中でも明治42年から43年にかけて撮影された可能性が高いと考

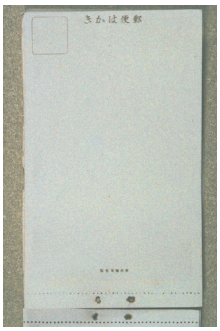

図21　絵葉書L　住友別子鑛業所新居濱惣開全景

図22　絵葉書L　解説図

える．

L　住友別子鑛業所新居濱惣開全景

絵葉書L（図21）には，惣開全景が写っている．絵葉書Kと比較すると新居浜火力発電所が増設された様子や新居浜肥料製造所が誕生した様子がうかがえる．明治43年に完成した新居浜火力発電所（写真17）は，その後の電力需要に応えた．海岸には塔式硫酸設備と過燐酸石灰工場が写っており，工場の煙突コも増えている（図22）．住友肥料製造所は，当初塔式硫酸設備4基とこれに必要な硝酸設備，過燐酸石灰及び配合肥料の工場を建設する計画だった．大正2年建設工事が始まったが，大正3年7月に第一次世界大戦が勃発．大正3年8月にはハルトマン社の技師の来日も機械類の輸入も不可能になりそうな状況であったため，塔式設備の建屋が完成しただけで工事を中止した[53]．肥料製造所は意を決して計画の変更に踏み切り，塔式にかわって鉛式2基をつくることとする．大正4年8月には鉛式1基が完成するが，この絵葉書の写真では，ちょうどその鉛式ができる前であることが分かる．また，絵葉書Aの項で詳述したとおり，第一期の計画が全て完成したのは，大正6年3月[54]である．別子銅山記念館にはその第一期計画完成時に撮影されたと考えられる絵葉書（写真18）が保管されていた．硫酸工場1号から4号及び硝酸工場も写っている．

この絵葉書Lは，セット綴り（B, D, G, L, P, T）である．よって，絵葉書Bで詳述したとおり，発行時期は不明である．以上より，写真が撮影されたのは，大正3年から大正4年8月の間と推定される．

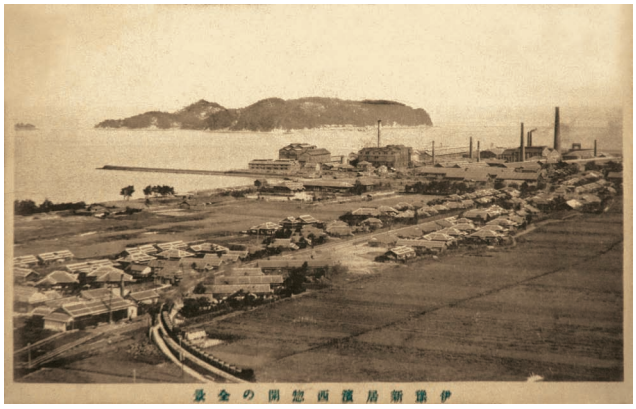

写真18　第一期計画完成頃の惣開全景
別子銅山記念館所蔵

M　（別子銅山）惣開全景

絵葉書M（図23）には惣開町を中心とした全景が写っ

図23　絵葉書M　（別子銅山）惣開全景

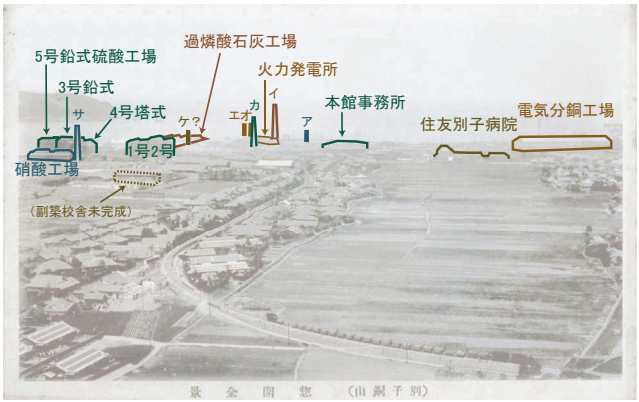

図24　絵葉書M　解説図

ている．左端には惣開小学校が写っているが，絵葉書Fで前述したとおり，大正14年6月に副築された校舎が写っていないため，大正14年6月以前に撮影されたと考えられる．新居浜肥料製造所の工場は，絵葉書Lに比べさらに建屋が増えている．当時，設備が老朽化の兆しをみせはじめたため，大正8年10月，鉛室1基（第5号）の増設工事が開始され，大正9年11月に完成した[55]．しかし新工場が完成したものの不況が深刻化し，大正10年には肥料製造事業の存続が問われるまでになった[56]．その当時の新工場である5号鉛室（図24）が写っているため，大正9年11月以降の撮影であることが分かる．また，右に写る西原の電気分銅工場は，大正11年の増設後の姿であると考えられる．よって写真が撮影されたのは，大正11年から大正14年6月の間と絞り込むことができる．

宛名面には，切手が貼られている．この切手は，図案民間公募により作られたいわゆる「田沢切手」であり，大正2年8月31日から発行が開始されたものである[57]．葉書の郵便料金は，明治32年4月から昭和12年3月までの期間は，1銭5厘であった[58]．宛先の地名「兵庫県武庫郡大庄村」は，明治22年4月に新設され，昭和17年，尼崎市に合併されるまで存続した．通信記載可能範囲は2分の1であることから大正7年3月1日以降の発行，また「はがき」でなく「はかき」の表記であることから，昭和8年2月15日の改正以前の発行であることが分かる．通信日付印からは，上段に「愛媛惣開」，中段に「8. 7. 21」，下段に「□8－12」[59]の文字が読める．通信日付印下段については，昭和5年12月1日から更植時間が1日5回に縮小統一し改正され，「前0－8」「前8－12」「後0－4」「後4－8」「後8－12」の表記のみとなった[60]．また，昭和18年2月11日からこの時刻表示に代わり道府県名表示になった[61]．絵葉書の写真面より，撮影は大正11年以降であることが分かったため，通信日付印中段の「8. 7. 21」は，大正8年7月21日ではなく昭和8年7月21日であることが分かった．

宛名面から分かる発行期間は，大正7年3月1日から昭和8年2月14日である．以上より，写真が撮影されたのは，大正11年から大正14年6月の間と推定される．

N　住友別子鑛山株式會社　惣開全景

絵葉書N（図25）には，惣開全景が写っている．電気分銅工場の南側変電室及び東端建屋が増築されているため，大正11年以降の撮影である．また，大正14年6月には惣開小学校の理科室が副築されるが，写真には，白っぽい屋根のその副築された校舎を確認することができる（図26）．よって大正14年6月以降の撮影であることが分かる．また，新田地区一帯にはまだ田んぼがみられる．大正生まれの人は，この一帯がよく水に浸かっていた事を語った．

「昭和初期，惣開通り西端にある嘉栄堂横の橋はドー

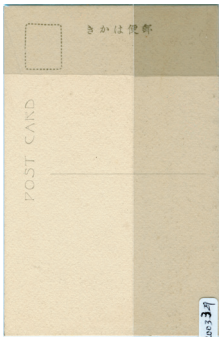

図25　絵葉書N　住友別子鑛山株式会社惣開全景

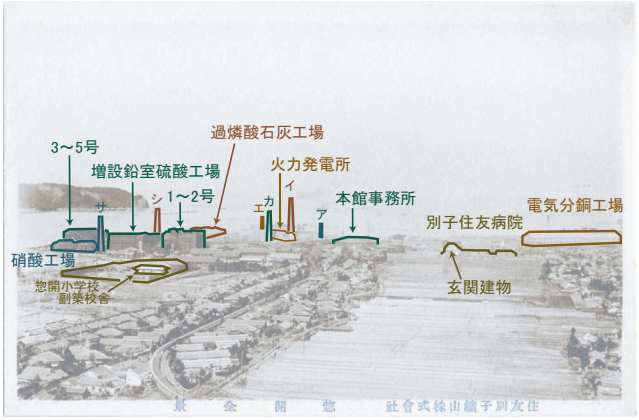

図26　絵葉書N　解説図

ム式で，海に面した側を木の板で塞いでいました（樋ノ口）．何年かに一度台風が来ると板が割れ，海水が裏の池（住友病院北側）へと流れ込んでいました．その池から南にある新田地区へと海水が流れ込み，よく新田地区一帯が水に浸かっていたことを覚えています．[62]」

新居浜肥料製造所の工場は，絵葉書Mに比べさらに建屋が増えている．大正12年9月1日，関東に大地震が起こり，関東一円の肥料工場は壊滅的打撃をうけた．そのため注文が殺到し物価が暴騰する事態となった[63]．住友合資会社は大正14年東京湾に1万坪の用地を購入し，過燐酸石灰工場の建設を計画したが，同業者会による猛烈な反対運動により断念した[64]．しかしこの代償として，同業者会の了解を得て，大正15年と昭和2年に鉛室各1基をこの新居浜の地に増設できることになった[65]．写真には，その増設した鉛室2基が写っているため，昭和2年以降の撮影であることが分かる．昭和4年6月には北側埋立て完了地に窒素工場（写真8）の建設が始まるが，写真にはまだ埋立地が見られないため，昭和4年6月以前の撮影

写真19　窒素工場完成後の惣開全景
別子銅山記念館所蔵

写真20　タービンロータ（中央）とケーシング（左端）

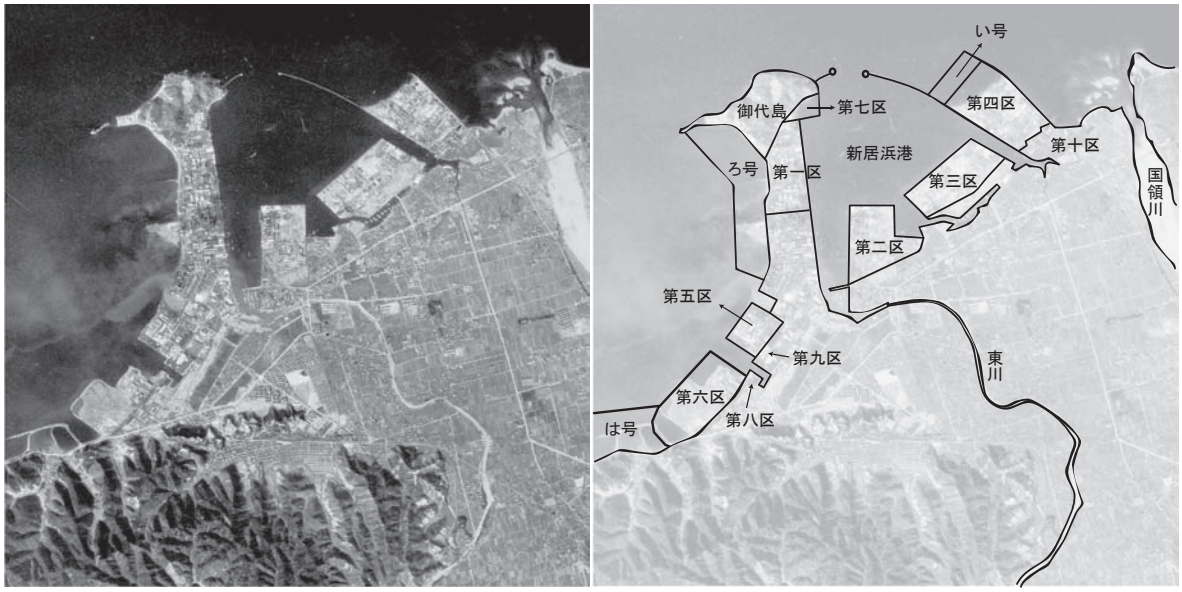

図27　新居浜港航空写真（昭和23年）及び埋立区分図
国土地理院所蔵写真使用（写真名：USA-M783-1-16，撮影：米軍，撮影年月日：1948. 02. 18）
住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史（下巻）．住友金属鉱山株式会社，1991，p.173．より作成

と考えられる．別子銅山記念館には，その窒素工場の完成後が写った絵葉書が保管されていた（写真19）．窒素工場の第1期全工場完成は昭和5年12月[66]，御代島と陸続きになる一歩手前の時代である．この頃から埋立造成工事が一気に進み，住友グループの臨海工業地帯が形成されていく（図27・表4）．写真19の磯浦には機械工場もみることができるが，昭和9年11月1日には「住友機械製作株式会社」として独立する[67]．このような各事業の拡大に伴い，新居浜諸工業の電力需要は激増していった．昭和7年末に1万1,000kWであった電力需要は，昭和10年末には2万5,000kWに達する見込みとなったのである[68]．新居浜第二火力発電所（現 住友共同電力株式会社 東火力発電所）の建設工事は，昭和9年に起工され昭和10年9月に竣工したが，すでに昭和10年11月の需要電力量は，別子鉱山（機械製作含む）1万500kW，化学工業7,000kW，アルミニウム製錬5,000kW，倉敷絹織7,000kW，その他1,500kWの合計3万1,000kW[69]にも上っていた．よって昭和11年3月には増設分も完成させ，出力4万kWとなった[70]．しかし諸工業の急激な発展に追い付かず，さらに2回目の増設が昭和11年12月に行われ，出力6万kWとなり四国最大火力発電所となった[71]．この2回目の増設で設置された2号タービンは，昭和34年まで主力として活躍し，その後は補完的役割を担い平成8年に使用を終える．平成15年には，当館が住友共同電力株式会社からこの2号タービンロータの寄贈を受けた．現在，このタービンロータは，新居浜産業の発展を物語る実物資料として，当館の屋外展示場に展示されている（写真20）．

宛名面から分かる発行期間は，大正7年3月1日から昭和8年2月14日であるが，タイトルに「住友別子鉱山株式会社」と記されている．鉱業所が株式会社化され「住友別子鉱山株式会社」になったのは，昭和2年7月1日．そして「住友鉱業株式会社」へと社名変更されたのが，昭和12年6月21日．よって，発行時，当時の会社名を使用していたとすると，昭和2年7月以降の発行であると考え

表4　埋立造成工事工区別面積

免許日	工区	所在	立地企業	当初着工	部分竣工	最終竣工	面積(m^2)	合計面積
S 5. 9. 6	第一区	惣開地先	化学	S 7. 9.15	S17. 11. 5	S47. 5.22	366,653	3,382,167
	第二区	西原地先	鉱山	S 5.12.22	S 7. 5.31	S12.12.24	565,868	
	第三区	大江地先	化学	S 7. 7.15	S 7.11. 9	S10.12.12	285,813	
	第四区	菊本地先	化学（アルミ）	S 8. 1.10	S11. 6.15	S45.12.31	680,519	
	第五区	惣開地先	機械	S 6. 6.16		S16. 7.24	300,320	
	第六区	磯浦地先	機械・共電・建設	S 5.10. 5	S21.12.21	S50. 7.28	1,147,034	
	第七区	惣開地先	化学	S 7. 9.15		S47.12.20	35,043	
	第八区	磯浦地先	機械	S12. 5.24		S22. 5.23	647	
	第九区	磯浦地先	機械	S 9. 9. 1		S29. 8.31	125	
	第十区	菊本地先	化学	S 8. 1.10		S14.11.14	145	
S17. 8.27	い区	菊本地先	化学（アルミ）	S17.12.21		S45.12.31	79,425	989,021
	ろ区	惣開地先	化学	S17.12.21		S48. 6.30	497,240	
	は区	磯浦地先	化学（アルミ）	S17.12.21	S42. 8.23	S47.12.31	412,356	

住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史（下巻）．住友金属鉱山株式会社，1991，p.175．より作成

図28　絵葉書O　住友別子鑛山株式会社　新居濱選鑛工場

られる．これは，「住友別子鉱山株式会社」と記されている絵葉書C，O，S，Uについても同様のことがいえる．以上より，写真が撮影されたのは，昭和2年から昭和4年6月の間と推定される．

O　住友別子鑛山株式會社　新居濱選鑛工場

絵葉書O（図28）には，新居浜選鉱場が写っている．新居浜浮遊選鉱場は，大正13年夏に建設着手し大正14年4月に竣工した[72]．大正14年の選鉱場と同時に，星越駅と選鉱場構内引込線が設置され，選鉱場で産出する品位11％の銅精鉱は，鉄道輸送で惣開を経由して，四阪島製錬所へ送られることとなった[73]．大正15年9月には選鉱操業合理化のため東平の粉・粒選鉱場がここ新居浜選鉱場に移設される[74]．新居浜選鉱場の完成により低品位鉱が製錬原料として利用できるようになった[75]．別子銅山記念館に保管されているアルバム内の写真21と比較した．異なる構図ではあるが撮影時期はほぼ同じであると思われる．選鉱場前の広い敷地は，昭和4年以降職員（傭員）社宅が新築される[76]場所である．社宅の建築について詳しい人は，次のように語った．

「別子鉱業所の土木課員として，3年余り鷲尾別子鉱業所長の指揮で土木工事を担当した町田実係長は『ある日，随行を命じられて，山田の長田池の辺りに行った．その時，山陰から10数人の補助消防手が手に手に土工具を持って現れ地ならしにかかった．これが山田住宅地帯の鍬入れであった．[77]』と追想文を寄せています．『長田池』は今も山田社宅の西の方にあります．『補助消防手』は，保安員とか警備員と呼ばれていた人達だと思います．また他の資料では，『山田社宅の埋立てには新居浜選鉱場から出た尾鉱を流送したり，星越山の赤土や端出場からの素石を使ったりした．』とあります．よって星越山を切り取った時に出た石や端出場からの素石で堰堤を作り，そこに尾鉱を流送し水を蒸発させてから，この上に45cm ～ 65cmの厚さに山の土石で盛り土をして埋め立てていったのではないかと私は考えています．[78]」

また「昭和4年に高台地社宅22戸が建設されたのをはじめとして，・・[79]」という記録もあり（西高東低の社宅街であるため）西から社宅の建設が始まったようである．写真には社宅が写っていないため，両写真とも昭和4年以前の撮影と考えられる．また引込線のレベル（海抜高度）に比べ，社宅用地はまだ若干低地にあることが分かる．古い文献には「昭和の初めから，住宅地と定めた田地に尾鉱を堆積し，その上に山の土を敷いた．[80]」

写真21　新居濱選鑛工場　別子銅山記念館所蔵

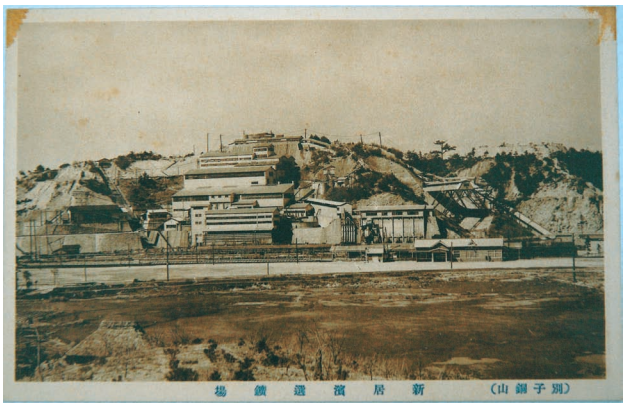

写真22　新居濱選鑛場　別子銅山記念館所蔵

写真23　選鉱場からみた山田社宅（東）

とある．この湿地帯と水田であった土地の尾鉱埋立てが確かに行われたようであるが，レベルの差があることから埋立ての途中段階であると思われる．この山田社宅の建築は新居浜都市計画の一つであり，それを打ち出したのは，住友別子鉱山最高責任者に就任（昭和2年10月）した鷲尾勘解治（わしおかげじ）であった．彼は，翌昭和3年から経営の刷新を断行[81]したため，埋立てもそれ以降であることは確実である．写真21が収められている別子銅山記念館のアルバム背表紙には，昭和3年と記されていた．後の絵葉書R，Vにおいても触れるが，当該アルバム内の写真撮影年は，この写真21からも，昭和3年撮影でほぼ間違いないと考えられる．写真には星越駅舎が写っていない．駅舎の設置を大正14年と記す文献も少なくないが，昭和3年アルバムの写真撮影年の信頼性が高いため，駅舎の建設はこの写真が撮影された後の昭和3，4年と考える．ちょうどその頃は，専用鉄道から地方鉄道に切り替えられる頃で，昭和3年8月6日に切り替えのため陸運局に申請，昭和4年2月6日に工事施工が認可され，4月15日着工，10月25日竣工，そして11月5日に営業が開始された[82]．別子鉱山鉄道の駅舎のうち現在も残っているのはこの星越駅舎のみであり，戦前の駅舎という点でも貴重である．別子銅山記念館が所蔵する絵葉書（写真22）には，社宅用地埋立て直後，そして駅舎完成直後の姿が写っている．山田社宅は，昭和4年13戸だったものが，昭和8年に52戸，昭和11年に71戸と急増した[83]．完成した職員社宅群は，当時高級住宅地として注目を集め，他財閥の三井・三菱の幹部も視察に訪れたという．この頃，社宅への出入りは東と西の2か所があったが，その2か所には守衛がおり，一般の人は入ることができなかった[84]．当時を知る人は次のように振り返る．

「当時，私はまだ子どもでした．どうしても社宅街を見てみたくて，一度だけ守衛の目を盗んで中へ潜り込んだことがありますが，その光景に圧倒されました．山田社宅はまさに別世界だと感じたことを，今でもよく覚えています．[85]」

写真24　選鉱場からみた山田社宅（西）

写真25　絵葉書Oの現在

写真23･写真24は，平成11年に撮影したものであるが，当時，選鉱場はまだ現役で操業しており，山田社宅は解体前で入居者も多くいた．平成22年5月15日に撮影した写真25は，まだ解体されていない西側社宅の一部と，平成22年8月からの解体を控えた選鉱場が写っている．

宛名面から分かる発行期間は，大正7年3月1日から昭和8年2月14日であるが，写真面に記載されている社名が発行時の正式名であれば，昭和2年7月1日以降の発行であると考えられる．以上より，写真が撮影されたのは，大正14年4月から昭和4年頃の間と推定されるが，その中

図29　絵葉書P　住友別子鑛業所電氣分銅ノ景

でも昭和3年に撮影された可能性が高いと考える．

P　住友別子鑛業所電氣分銅ノ景

絵葉書P（図29）には，電気分銅工場が写っている．大正6年11月工場の建設に着手し，大正8年5月に完成した[86]（図30）．通常，工場建屋の完成後に工場内の設備が整えられていくため，建屋は大正7年には完成していたと考えられる．よってこの外観の写真が撮影されたのは，大正7年以降であることが分かる．完成後直ちに操業を開始し，大正8年5月初めて117ｔの電気銅（銅品位99.96％）が生産された．完成当時の電解槽は300槽であるが，大正11年に324槽となった．また昭和4年からさらに増設され，昭和6年には457槽，月産能力1600トンにまで増強された[87]．建設当初は図30のとおり変電室が1か所であったため，絵葉書Pに写る工場は建設当初のもの，つまり大正11年以前の撮影と考えられる．

この絵葉書Pは，セット綴り（B・D・G・L・P・T）である．よって，絵葉書Bで詳述したとおり，発行時期は不明である．以上より，写真が撮影されたのは，大正7年頃から大正11年の間と推定される．

Q（新居濱名所）住友鑛山會社電氣分銅工場

絵葉書Q（図31）には，Pと同じ位置から撮影された電気分銅工場が写っている．よくみると，絵葉書Pの左

図30　電気分銅所内配置図　別子銅山記念館所蔵資料を元に作成

図31　絵葉書Q　（新居濱名所）住友鑛山會社電気分銅工場

端に写っていた家屋はなく，また工場の南側変電室及び東端建屋が増築されており，絵葉書Pより後年に撮影されたことが分かる．電解設備の軽微な増設は大正11年に，大規模な増設は昭和4年と6年に行われているため，その間に撮影されたと考えられる．また，惣開の全景を捉えた絵葉書M・Nをみると，このQと同じ増設後の電気分銅工場が写っている．絵葉書Mの項においては大正14年6月以前の撮影であることが既に明らかになっており，このことは，この絵葉書Qの増設が，昭和4年でなく大正11年のそれであることをも裏付けている．この工場は50年近く使われた後，昭和40年代に20億円を投じて改修され，日本初の月産1万トン工場に生まれ変わった．この工場は，住友金属鉱山株式会社が所有する一つの工場として，現在も稼働している（写真26）．現在，住友金属鉱山株式会社は，資源開発，非鉄金属製錬業，電子材

写真26　絵葉書P・Qの現在

ウェブ上では,この画像は非公開です．(愛媛県総合科学博物館)

写真27　電解工場内
撮影協力　住友金属鉱山株式会社

ウェブ上では,この画像は非公開です．(愛媛県総合科学博物館)

写真28　電解槽に並ぶアノードとカソード
撮影協力　住友金属鉱山株式会社

図32　絵葉書R　（別子銅山）電氣製銅所内部

料・機能性材料の製造等の事業を手掛け，従業員数9,309名（連結），売上高7,258億円（2009年度連結）[88]の大企業となっている．この写真26の工場は東予工場精銅課として，西条市船屋の東予工場（写真27・写真28）とともに，現在も電解が続けられている．

また，絵葉書Q, U, Vには，「大正堂書店」と記されている．現在も新居浜市内にある大正堂書店は，当時の絵葉書の発行に関して次のように語った．

「おそらく先々代の頃，住友から請け負って絵葉書の販売をしたのだろうと思います．絵葉書の発行や販売に関しては，聞き伝えられていることはありません．また，古い記録や写真も探してみましたが，残念ながらそれらしい資料は見つかりませんでした．[89]」

宛名面から分かる発行期間は，大正7年3月1日から昭和8年2月14日であるが，写真面に記載されている社名が発行時の正式名であれば，昭和2年7月1日以降の発行であると考えられる．以上より，写真が撮影されたのは，大正11年から昭和4年の間と推定される．

R（別子銅山）電氣製銅所内部

この絵葉書（図32）には，電錬工場内が写っている．この建物が完成したのは，前述の通り大正8年5月，工場は縦480尺（約145m），横69.4尺（約21m）のレンガ造りである[90]．完成当時の電解槽は300槽であるが，大正11年に324槽となり，また昭和4年からさらに増設され，昭和6年には457槽，月産能力は1,600トンにまで増強された[91]．その後，昭和16年7月には，さらに14槽増設された[92]．電解槽は，当初トーハン式の木製鉛張りであるが，昭和25年からウォルカー式コンクリート製鉛張りに随時改造されていった[93]．写真の電解槽はトーハン式である．電解槽の1槽の大きさは，縦8尺（約2.42m），横4尺（約1.21m），深さ3.3尺（約1m）[94]である．現在の正方形に近い電気銅（写真29）と比べると，写真に写る重機で持ち上げられたものは，縦長く面積も半分ほどである．この形状は昭和中期まで続いていた．ここで使うアノードは四阪島で作られたものである．明治38年から昭和51年まで銅製錬が行われていた四阪島では，現在酸化亜鉛製造事業が行われている．また，酸化亜鉛製造事業に特化し生産体制の強化を図るため，平成22年10月1日より新会社が分離・設立されることになり，住友金属鉱山株式会社四阪工場は株式会社四阪製錬所として新たに発足した[95]．写真に写る電解槽の数を数えてみた．電解槽は，若干段差を付けているため奥へ向けて波打っているのが分かる．波打つ山から山の間の槽数は，6槽．そして写真を拡大してみると，その山から山の周期は6つあり，手前に3槽あまる．よって1列に6槽×6周期＋3槽＝39槽はあると考えられ，工場内では39槽×8列＝312槽は確実にあることが分かる．よって電解槽が324槽だった大正11年から昭和4年の間に撮影された可能性が高い．また，写真右に写る窓からも，絵葉書Pの変電室1室時代ではなく，増築された絵葉書Qの時代，つまり大正11年から昭和4年の間であると考えられる．

別子銅山記念館所蔵の写真を調べると，この絵葉書の写真とほとんど同一の写真30が所蔵されていた．写真を比べると，アノードに手を添えている作業員の首の傾きが両写真で若干異なるため，数秒違いの撮影であること

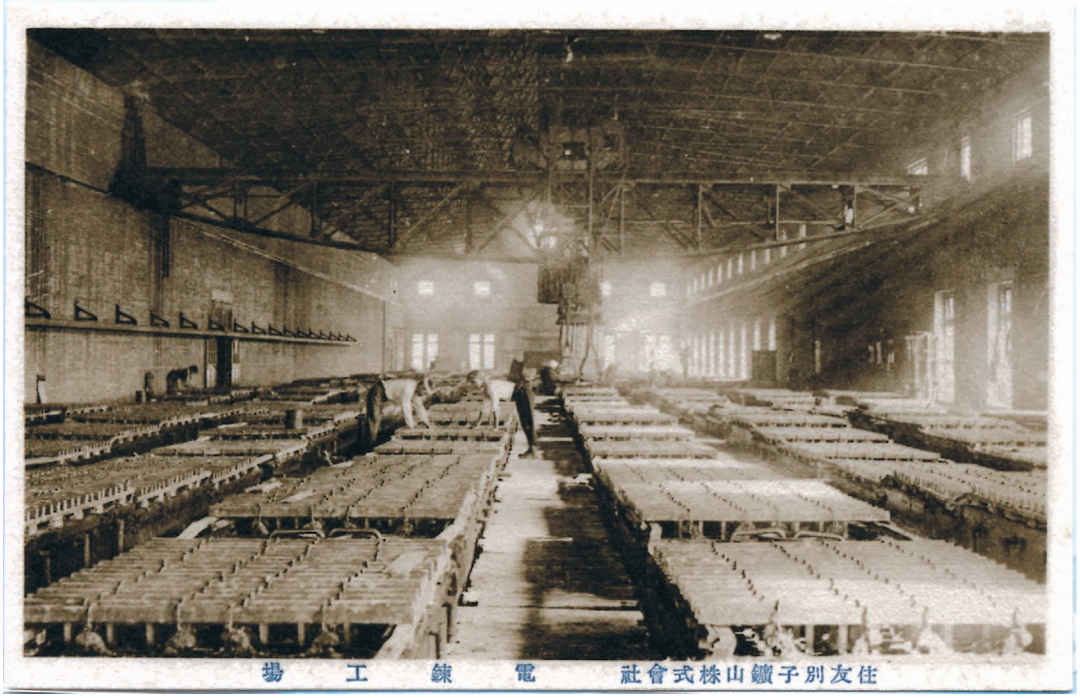

図33　絵葉書S　住友別子鑛山株式會社　電錬工場

ウェブ上では,この画像は非公開です. (愛媛県総合科学博物館)

写真29　現在生産されている電気銅
撮影協力　住友金属鉱山株式会社

写真30　電錬工場　別子銅山記念館所蔵

が分かる．写真の下には「電錬工場　新居浜」と記され，絵葉書O・Vでも触れる昭和3年アルバム内に貼られているため，昭和3年撮影の可能性が高い．

宛名面から分かる発行期間は，大正7年3月1日から昭和8年2月14日．以上より，写真が撮影されたのは，大正11年から昭和4年の間と推定されるが，その中でも昭和3年に撮影された可能性が高いと考える．

S　住友別子鑛山株式會社　電錬工場

絵葉書（図33）には，電錬工場内が写っている．電錬工場については絵葉書Rの項において前述．絵葉書Rと比較すると，細部に若干変化がみられるため，同日撮影でないことは分かるが，撮影年を絞り込むには至らなかった．写真右に写る窓により，大正11年から昭和4年の間の撮影と考えられる．

宛名面から分かる発行期間は，大正7年3月1日から昭和8年2月14日であるが，写真面に記載されている社名が発行時の正式名であれば，昭和2年7月1日以降の発行であると考えられる．以上より，写真が撮影されたのは，大正11年から昭和4年の間と推定される．

T　住友別子鑛業所事務所ノ景

絵葉書T（図34）には，住友別子鉱業所の事務所が写っている．大正6年7月，別子鉱業所の構内各所に散在していた事務所が執務上不便でありまた老朽化していたため，同地で木造二階建ての事務所（本館）が新築された[96]．絵葉書Tに写るのは，その新築された本館事務所である．別子銅山記念館には，新築される前の建物が写っ

図34　絵葉書T　住友別子鑛業所事務所ノ景

写真31　住友別子鑛業所正門　別子銅山記念館所蔵

写真32　地所課搾乳場　別子銅山記念館所蔵

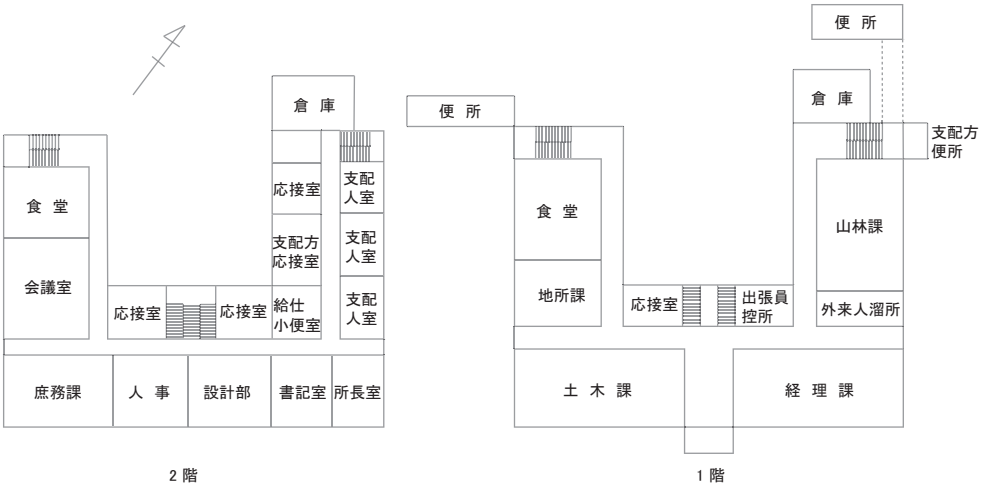

図35　別子鉱業所本館事務所内配置図　別子銅山記念館所蔵資料より作成

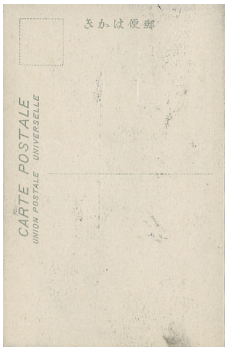

図36　絵葉書U　（新居濱名所）住友別子鑛山株式會社本館事務所

ている絵葉書（写真31）が所蔵されていた．それには，別子鉱業所正門だけでなく，奥に分析所と住友銀行新居浜支店がわずかに写っている．写真を比較すると，明治期に建てられた写真31の門柱や欄干がそのまま使われていることも分かる．新築当時の本館事務所内配置図は，図35のとおり．話は逸れるが，「昔，別子鉱業所が牛を飼っていた」という話を聞いたことがある．文献上でそのような内容をみたことがなかったため半信半疑であったが，今回の記念館の資料を調査させてもらい，牛が写っている絵葉書（写真32）を確認できた．タイトルには「（別子銅山）地所課搾乳場」とある．このタイトルにある「地所課」は，図35でも確認することができた．この地所課は，昭和3年7月の機構改編により農林課地所係となった[97]．昭和中期には絵葉書Tの惣開本館事務所も老朽化したため，精銅・ニッケル工場に近く四阪島への往来に便利な西原地区の新本館建設が計画された．西原本館事務所が完成し，昭和39年4月28日移転され現在に至る[98]．絵葉書Tの惣開本館事務所の跡地は，工場用地として住友化学へ譲渡された．写真の本館事務所を囲んでいる塀は，色味がはっきり分からないものの，おそらくカラミレンガではないかと考えていたが，詳しい方[99]からカラミレンガである事を御指摘いただいた．四阪島では，操業開始時から昭和25年頃まで，製錬過程で排出されるカラミの一部を用いレンガを生産していた[100]．四阪島内では，現在も階段や塀等あらゆるところでそのカラミレンガを見ることができる．鉄分を多く含み重量があるため運搬に不向きで，島外へはあまり持ち出されていなかったが，住友金属鉱山株式会社東京本社や新居浜市役所玄関に使われていたことを考えると，この本館事務所への使用は当然ともいえる．

この絵葉書Tは，セット綴り（B・D・G・L・P・T）である．よって，絵葉書Bで詳述したとおり，宛名面からみた発行時期は不明である．しかし写真面のタイトルには株式会社と記されている．鉱業所が株式会社化され「住友別子鉱山株式会社」になったのは昭和2年7月1日，よって発行期限は昭和2年6月と考えられる．以上より，写真が撮影されたのは，大正6年7月から昭和2年6月の間と推定される．

U（新居濱名所）住友別子鑛山株式會社本館事務所

絵葉書U（図36）には，住友別子鉱山株式会社本館事務所が写っている．絵葉書Tと同じ建物だが，通用門柱上の照明がなくなり，植栽も変化している．また，7段

写真33　住友別子鑛山株式會社事務所　別子銅山記念館所蔵

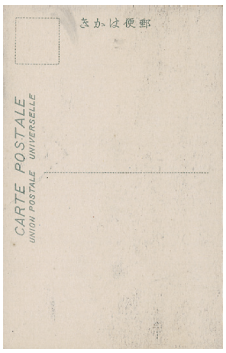

図37　絵葉書V　（新居濱名所）住友病院

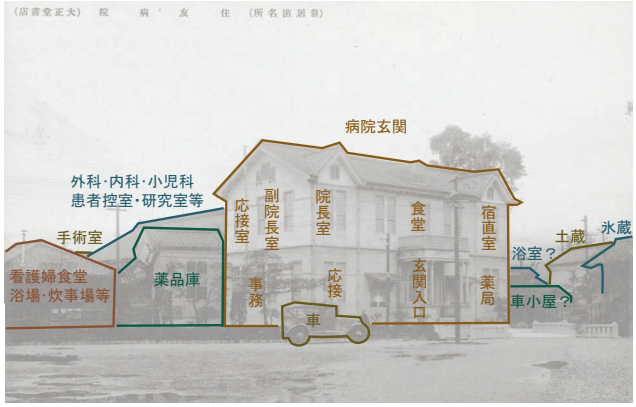

図39　絵葉書V　解説図

積み上げられていたカラミレンガの塀の上部には白いコンクリートのようなもので整えられて様子もみられる．

別子銅山記念館所蔵の写真を調べると，この絵葉書Uの写真とほぼ同じ年代に撮られたと思われる写真33が収蔵されていた．電柱や木の位置も同じであり，写真の下には「住友別子鉱山株式会社事務所　愛媛県新居浜町惣開」と記されている．この写真は，絵葉書O・R・Vでも触れる昭和3年アルバム内に貼付されており，昭和3年撮影の可能性が高い．

宛名面から分かる発行期間は，大正7年3月1日から昭和8年2月14日であるが，写真面に記載されている社名が発行時の正式名であれば，昭和2年7月1日以降の発行であると考えられる．以上より，写真が撮影されたのは，大正6年7月から昭和8年2月14日の間と推定されるが，その中でも昭和3年前後に撮影された可能性が高いと考える．

V（新居濱名所）住友病院

絵葉書V（図37）には，住友病院の玄関建物が写っている．住友病院の主な変遷は，表5のとおり．明治32年8月28日，別子に大水害が起こり「山」は壊滅的な被害を受けた．別子鉱業所が惣開へ移転されることになり11月から実施されたが，それに伴い私立住友病院も金子村に開設された．明治34年12月28日，新居郡金子村大字金子乙1594の1番地（現在の新居浜市惣開町3番17号）に，私立住友病院が新築竣工した[101]．絵葉書V（図2－V）においての診療は，明治34年12月8日から昭和11年11月10日（新病院診療開始）前までの期間であった[102]．竣工時の診療科は，内科・小児科・外科・眼科，病床数は一般病床21床である．大正6年2月10日，増築病棟が落成[103]したが，この時はまだ1階建てであった．大正9年頃撮影されたとされる写真34には，病院玄関前が写っているが，少し写りこんでいる屋根から，まだ1階建てであることがわかる．また，昭和2年頃撮影されたとされる写真35には，改築された玄関両側の窓と廂が写っており，絵葉書Vのそれらと同じ形状になっている．よって2階建てに増改築されたのは，大正9年頃から昭和2年頃の間と絞られる．その後，昭和9年8月30日には増築病室が竣工し，図38のとおり2階建て玄関図面も載っている．この平面図をみると，玄関建物の1階は，向かって右側に薬局，左側に事務・応接室があり，2階は，中央の食堂を挟んで右側に図書室，宿直室，左側に院長室，副院長室，応接室があった（図39）．この建物は現在も残っており，住友化学関連会社の事務所として使われている（写真36）．

表5　住友病院の変遷

年	月	日	内　容	所　在　地	図2内の位置
明治24年	9月	8日	金子村住友病院開設	（金子村旧村上宅）	
明治25年	12月	31日	金子村住友病院廃止（以後金子村では嘱託医が医療を担当）		
明治32年	8月	1日	新居浜仮病院開設診療開始（同年12月末廃止）	（新居浜鉱業所内）	
	11月	13日	本院創立診療開始	新居郡金子村614番戸	
明治34年	12月	28日	「私立住友病院」新築開院	新居郡金子村大字金子乙1594番地の1	V
大正 6年	2月	10日	病院増築（隔離室・病室・看護婦詰所）起業落成		
大正10年	2月	2日	「私立住友別子病院」へ改称		
昭和 3年	6月	22日	「私立別子住友病院」へ改称		
昭和 9年	8月	30日	病室増築		
昭和11年	11月	10日	新築病院にて診療開始	新居郡金子村大字金子字新田乙1334番地外	V1
昭和41年	3月	1日	新築病院にて診療開始	新居浜市金子乙1775番地	V2

住友別子病院．住友別子病院百年のあゆみ．住友別子病院，1989，146pp．より作成

別子銅山記念館所蔵の写真を調べたところ，この絵葉書と同様の2階建て玄関が写った写真37が所蔵されていた．写真内には「奉祝」の文字や日の丸の旗があり，何かを祝っている様子．右端には所長宅の板塀が写っている．この写真は，絵葉書O・Rでも触れる昭和3年アルバム内に貼付されており，昭和3年撮影の可能性が高いと考える．昭和3年といえば6月22日に病院名を改称しているが，名称を改めた程度で祝うということは，あまり考えられない．写真に写る樹影のその方角と長さから，初夏でないことも明らかである．書籍「住友別子病院百年のあゆみ」には，写真37と同じ時に撮られたと思われる写真が掲載され「2階建てに増改築した落成祝の写真と思われる[104]」と記されているが，前述昭和2年頃撮影の集合写真には増改築済の建物が写っているため若干疑問が残る．集合写真が昭和3年に撮影されたとすると，昭和3年に増改築し落成祝いした後撮影，とつじつまは合うが推測の域を出ない．昭和3年11月10日に執り行われた昭和天皇即位の礼を祝った可能性も考えられる．また，写真の下に記されている名称「私立別子住友病院」は，確かに昭和3年6月22日以降の病院名称である．記念館に所蔵されているこの写真37と絵葉書Vの写真とは，建

写真34　大正9年頃病院玄関前にて　住友別子病院所蔵

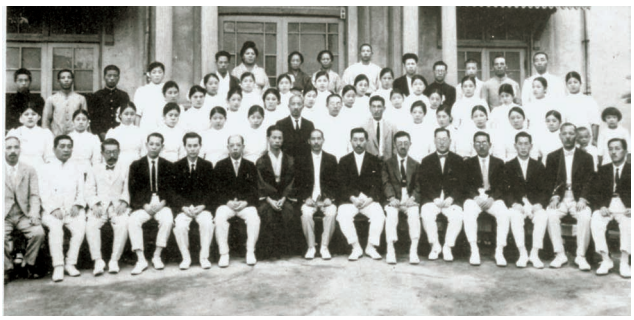

写真35　昭和2年頃病院玄関前にて　住友別子病院所蔵

写真36　絵葉書Vの現在

写真37　私立別子住友病院　別子銅山記念館所蔵

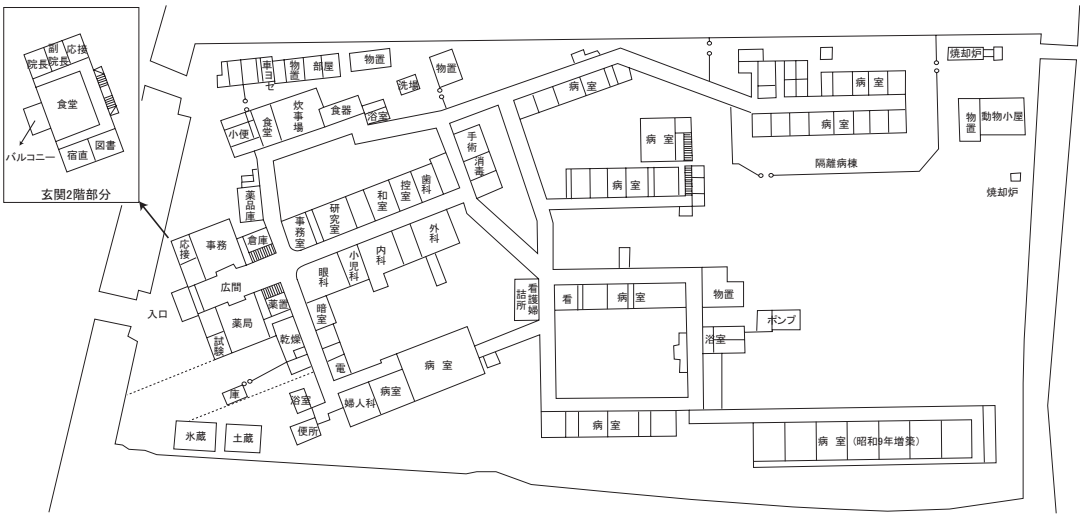

図38　別子住友病院内配置図（昭和9年）
住友別子病院．住友別子病院百年のあゆみ．住友別子病院．1989．p. 145. より作成

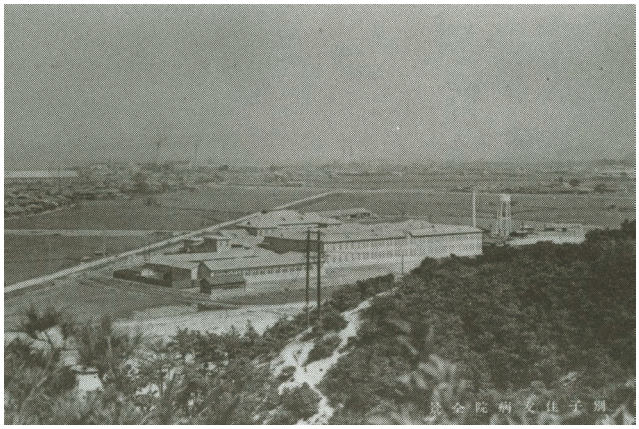

写真38　昭和11年新築私立別子住友病院　住友別子病院所蔵

写真39　現在の住友別子病院

物北側の煙突や増えた電柱等若干異なるものもみられるが，樹木等をみると撮影年代は近いと考えられる．絵葉書M・Nの惣開全景写真においても，この2階建て病院玄関が写っており，樹木の高さも絵葉書Vと同じくらいである．この病院を訪れたことのある人は，思い出を次のように語った．

「昭和5年頃，私は小学生でした．この病院に母が入院していたので，自転車で着替えを持って行っていた事があります．病院の前の広場はとても広く，太鼓が集まっていたのを覚えています．[105]」

病院敷地内では，順次増改築が行われてきたが，事業所数の増加による社員及びその家族数が増加したため，昭和11年11月10日，新居郡金子字新田乙1334番地外（図2－V1）に病院（写真38）を新築開院した[106]．さらに昭和41年，隣地（図2－V2）に病院が移転され，現在（写真39）に至る．

宛名面から分かる発行期間は，大正7年3月1日から昭和8年2月14日．また，病院の名称は，明治期から「住友病院」であったが，大正10年2月2日から「住友別子病院」，昭和3年6月22日から「別子住友病院」に改称された[107]．よって，絵葉書に記載されているタイトルが正式名であれば，大正10年2月2日より前の発行と考えられるが，通称である可能性もある．以上より，写真が撮影されたのは，大正9年頃から昭和8年2月14日の間と推定され，発行時のタイトル（病院名）が正式名であれば大正9年頃から大正10年2月1日の間に撮影されたことになるが，別子銅山記念館所蔵写真37と同じ頃の昭和3年前後に撮影された可能性の方が若干高いと考える．

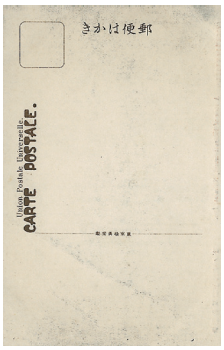

図40　絵葉書W　伊豫新居濱惣開ノ景

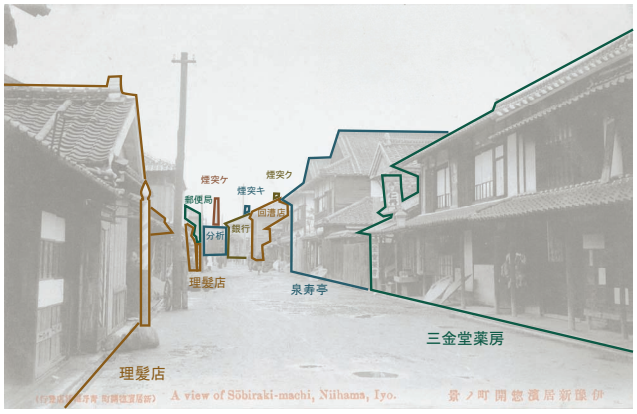

図41　絵葉書W解説図

写真40　絵葉書Wの現在

W　伊豫新居濱惣開町ノ景

A view of Sōbiraki-machi, Niihama, Iyo.

絵葉書W（図40）には，惣開町の通りが写っている．この通りをまっすぐ奥に進むと，絵葉書Xの撮影地点に突き当たる．この通りの当時の建物は，現在は残っていない（写真40）．雨上がりに撮られた写真であろうか，道には水たまりが，軒下には番傘がある．人通りもあり，各々の店も営まれているようすで，この惣開通りが強制疎開の前であることが分かる（図41）．この辺りは「揚地（あげち）」と呼ばれ，この惣開通りは一番の賑わいをみせていたようである．昭和10年代の惣開通りの建物の名称を図42に記す．当時を知る人は，次のように語った．

「私は大正生まれです．昭和初期のこの通りは賑やかな通りで，朝は会社へ通勤する自転車が道いっぱいに広がっていました．そして土曜夜には各商店が店の前に商品を出し夜店が行われ，竜宮さん（竜神さん：住友化学に出入りする青野海運，森実運輸などの運輸会社が海上の安全祈願のため共同で建立したもの[108].）のお祭りでは，花火をあげていました．別子堂のお菓子「ローマン」が初めて売り出された時は，とぶように売れていたのをよく覚えています．銀行や郵便局，三金堂もよく利用しました．三金堂の隣は，料亭のような旅館『泉寿亭』がありました．子どもたちは，泉寿亭の裏の辺りを揚地（あげち）と呼び，そこでよく泳いでいました．旅館は，戦時中に捕虜収容所として使われました．朝7時頃捕虜の人達が泉寿亭から出てきて，10人ぐらいずつ整列して会社に出勤していたのを覚えています．私たち女性は，町中でバケツリレーや竹槍の練習をしていました．昭和19年夏，強制疎開のため，この惣開通りの店のほとんどが

図42　昭和10年代の惣開通り　白川幸子氏からの聞き取りにより作成

写真41　竜宮さん

取り壊され，私たち家族も引っ越しを余儀なくされました．[109]」

「昭和初期，揚地には店が並んでいて，ここに来ると何でも揃いました．昭和6，7年頃，私は子どもでしたが，住友へもよくお使いに行きました．この通りを自転車で通り抜けて住友の販売所へ行き，石炭を買って帰っていたことをよく覚えています．[110]」

「私は，昭和15年生まれです．揚地のたばこ屋に生まれ，強制疎開までの幼少期をここで過ごしました．覚えていることはほとんどありませんが，家の中は薄暗く通り抜けになっていて，明かりとりの天窓がありました．親に頼まれ，紐をガラガラと引っ張ると，天窓のガラスの内側にあるブラインドがずれ，家の中に光が差し込んでいたことを覚えています．戦後，私たちの家が一番に揚地へ戻ってきました．絵葉書の写真に写る通りの道幅は広く見えますが，今と同じです．店前の溝ギリギリの所に切石が埋まっていて，それが通りと店の土地との境目でした．戦前，竜宮（りゅうぐう）さん（写真41）では夏に祭りがあり，それぞれの店がお供えを出していましたが，戦後はしていません．通りの西端に現在も残っている建屋（写真43の左端）は，戦後郵便局だったと思います．[111]」

「私の親は，この通りで歯医者をしていました．新居浜で初めての歯医者でした．私の親は1週間に1回ほど，惣開駅から汽車に乗り端出場へ診療に行っていました．私は子どもだったので，親が住友にどういう雇われ方をしていたかは知りません．通りからは，住友の大きい煙突が見えていて，『おばけ煙突』と呼ばれていました．店の前の通りは，通勤の自転車がとにかく多かったことを覚えています．東の多喜浜，垣生，沢津，東町，大江等からの通勤自転車は，他に通れる道が無かったため，この通りに集中しました．通りはとても賑やかでした．料理屋の丸梅のことは，皆『まるめ』と呼んでいました．通りにあった寮は，病院の看護師の寮でした．向かいにあった旅館は，私が兵隊に行く前，捕虜収容所になっていたこともよく覚えています．[112]」

通りの突き当たりには，明治34年3月[113]に新築落成した住友銀行新居浜支店，明治36年2月16日に移転してきた惣開郵便局が写っている（図41）．通りの奥に白衣を着た人が確認できる．ちょうどそこを左に折れ曲がった所に住友病院（絵葉書V）が建っているため，病院に勤務している人かもしれない．通りの右側には，「仁丹」の看板を掲げる三金堂薬房が写る．携帯・保存に便利な丸薬「仁丹」が誕生したのは，明治38年2月1日[114]．この頃から，この有名な大礼服の仁丹看板が，全国の薬店に取り付けられていったため，この写真が撮影されたのは，それ以降と考えられる．この三金堂薬房の西側の建物は，コの字型の泉寿亭である．後年，この建物が北新町の泉寿亭へ移築されたかどうか調べたが，明らかになら

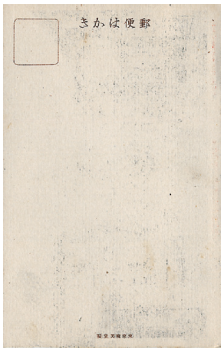

図43　絵葉書X　伊豫新居濱住友銀行支店及惣開所

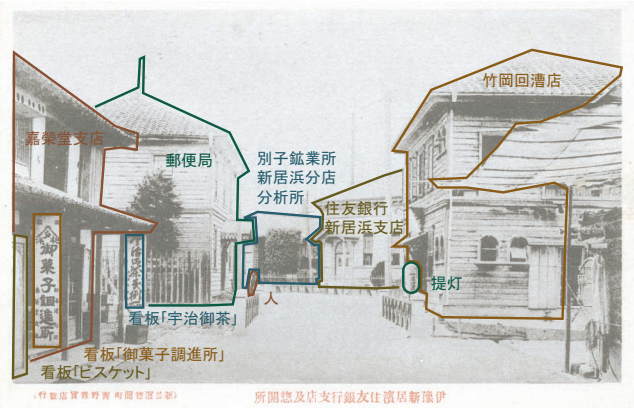

図44　絵葉書X　解説図

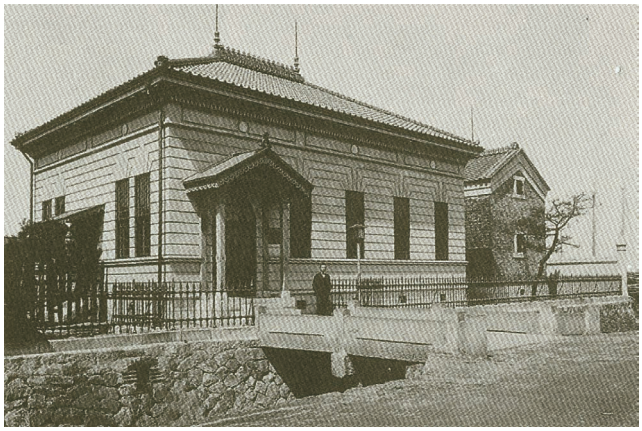

写真42　明治34年7月住友銀行新居浜支店　住友史料館所蔵

なかった．通りの正面には煙突が3本みえる．図16のとおり右から煙突ク・煙突キ・煙突ケであると考えられる．また，この方角からだと，新居浜肥料製造所の過燐酸石灰工場と硫酸工場の間にある煙突コがあるはずだが，それがみられない．よって煙突コの完成以前つまり大正4年8月より前に撮影されたと考えられる．図42の青野煙草屋は，住友の絵葉書を多く発行した「新居濱惣開町青野雑貨店」の可能性があると考え調べたが，この点も明らかにならなかった．

宛名面から分かる発行期間は，明治40年3月28日から大正7年2月28日．以上より，写真が撮影されたのは，明治38年2月から大正4年8月の間と推定される．

写真43　絵葉書Xの現在

X　伊豫新居濱住友銀行支店及惣開所

絵葉書X（図43）には，住友銀行新居浜支店が写っている．明治28年，住友銀行が開業，明治29年1月から別子鉱山及び新居浜分店に銀行の出張員を派遣し，住友鉱業部資金の一切を取り扱うことになった．その翌年，明治30年2月15日，新居浜出張店が開業し，銀行業務全般の営業を開始した[115]．別子への職員派遣は，銀行出張店の開店後も続けた．出張店の呼称を廃し，支店に昇格する明治34年9月1日[116]を控え，明治34年3月[117]に住友銀行新居浜支店が新築落成した．この建物は鉱業所土木課[118]が担当した．住友史料館には，明治34年7月撮影の写真42が残っている．明治38年4月からは，四阪島にも職員を派遣して，それぞれの鉱業部の会計事務と職員の預金を扱った．住友銀行新居浜支店としてこの建物が使われたのは，昭和33年1月14日までである[119]．その後住友化学株式会社に買い取られ，平成2年9月に住友化学歴史資料館として改修され，現在に至る[120]．この建物は，平成13年4月24日 登録有形文化財に登録された[121]．現在の玄関屋根は改築されたもので，絵葉書の写真より若干低くなっている．玄関横の窓の高さと比べると分かりやすい．（写真43）．

絵葉書Xの右側建物の軒先に提灯があり，その提灯には竹岡回漕店と記されている（図44）．ここから船が出ていて，人や物資を運んでいた．昭和初期には，既に「竹岡」の名でなく，「桑原回漕店」として人々の記憶に残っている．その桑原回漕店は現在の桑原運輸株式会社であり，創業に関して次のように語った．

「大正時代，私の曽祖父である桑原幾太郎が，竹岡回漕店の後を引き継ぎ，同じこの建屋で桑原回漕店を創業させました．桑原回漕店の創業は大正13年4月でした．[122]」

桑原回漕店の創業は大正13年4月であるため，写真が撮影されたのは，それ以前であることが分かった．

左から2番目に写るのは，郵便局である．当時，この郵便局の2階には交換台等もあって，子どもがよく自由に出入りして2階でも遊んでいた[123]．この2階建郵便局が完成したのは明治36年2月16日，郵便局の惣開移転とともに，新居浜郵便局から惣開郵便局に改称している[124]．よって，この絵葉書が撮影されたのは明治36年2月16日から大正13年4月の間であると考えられる．

左端に写るのは，嘉栄堂支店．軒先には「ビスケット」「菓子」「茶」を宣伝する看板が掛かっている．この場所には，現在，建設会社の看板がかかった建屋（写真43の左端）が残っており，嘉栄堂の建物は既にない．現在残っているこの建物は戦後建てられたものであり，当時郵便局として使われていた[125]ようである．写真に写る嘉栄堂で幼少期を過ごした人は，次のように語った．

「私の親が嘉栄堂を経営していました．嘉栄堂が開店したのは，大正元年から2年と聞いています．建て替えが昭和10年から11年で，強制疎開による建物の取り壊しが昭和19年の夏でした．店では，明治･森永製品や饅頭，カステラ，煎餅，雑菓子等を売っていました．お祭りのときは店の2階に上がると（道が狭いため）目の前で太鼓を見ることができました．店の裏（南）には，階段があり崖下（泥地）へ降りられるようになっていて（三階形地），井戸や物置がありました．台風が来るとその泥地も海水で覆われ，それぞれの店の物置や木箱等がよくプカプカ浮いていたことを覚えています．写真に写る嘉栄堂の建物は，私の記憶とは少し異なります．よく覚えている建物ではないので，建て替え前の嘉栄堂だと思います．[126]」

宛名面に仕切り線はない．仕切り線の無い絵葉書の発行期限は，明治40年3月27日であるが，大正元年から2年に開店した嘉栄堂が写っており矛盾が生じている．よってこの絵葉書も，絵葉書A同様の発行時期は不明である．以上より，写真が撮影されたのは，大正元年から大正13年4月の間と推定される．

お　わ　り　に

本稿では，井上真治氏所蔵絵葉書及び愛媛県歴史文化博物館所蔵絵葉書（灘口慎之氏寄託）のうち，惣開周辺で撮影された24枚の絵葉書について考察した．特に井上真治氏所蔵絵葉書には，どこの資料館にも保管されていない初公開の写真が含まれており，それらを記録・公開できた点がよかった．また，大正生まれの方々から昭和10年代の惣開について聞き取りができ，今まで明らかでなかった内容を記録に残せた点も大きな意義があった．写真の撮影推定年もある程度絞り込めたように思うが，今後の調査の進展により修正や追記が必要になった場合は，改めて報告したいと考えている．地域の方々には，今後とも引き続きご教示を賜りたい．絵葉書の発行に関しては，考察を包括して気づいた点があったため，次に記す．

一つ目は，絵葉書の発行が大正時代を中心に展開されていたこと．昭和3年頃撮影のものも数点は確認できたが，撮影の後，時を置かず発行されたようである．24点のうち「郵便はがき」と記されたもの，つまり昭和8年2月15日以降の発行絵葉書は，皆無であった．

二つ目は，愛媛県歴史文化博物館所蔵の一綴りになった絵葉書（B・D・G・L・P・T）が，大正7年頃に発行された可能性が高いということ．撮影年を考察したところ，大正7年頃までにこれらの写真を揃えることができたということが分かった．よって，住友別子鉱業所がその頃にこの一綴りの絵葉書を発行した可能性が極めて高いと結論づけられる．このことから絵葉書Tの撮影は大正6年7月から大正7年頃の間と絞り込むことができる．

三つ目は，「矛盾絵葉書」の発行は，大正7年の可能性

が高いということ．宛名面に仕切り線がないため明治40年以前発行の絵葉書のはずが大正時代撮影の写真が写っている「矛盾絵葉書（A・E・X）」について，いずれも大正7年の仕切り線切り替え時期に発行可能な風景であった．これは，「絵葉書について」の章で触れた別論文の推察「（矛盾絵葉書は，仕切り線が）3分の1から2分の1に切り替わる時に発行された絵葉書か[127]」を裏付ける結果となった．これにより，絵葉書Eの撮影は大正元年夏から大正6年夏の間となり，絵葉書Xの撮影は大正元年から大正7年初めの間と推定することができる．ただ断定するには数が少ないため，この点については今後の調査においても引き続き考察していきたい．

四つ目は，青野雑貨店発行の絵葉書が最も年代が古いということ．宛名面の仕切り線が2分の1でない絵葉書15枚のうち，1枚（絵葉書J）を除いた14枚に「青野雑貨店発行」が記されていた．また撮影推定年も，明治30年代後半から大正中期頃と集中しており，住友史料館からご教示いただいた内容「大正堂書店絵葉書は昭和2年以降，真鍋写真館絵葉書は大正期，青野雑貨店絵葉書はそれよりも古い年代明治38年頃からの作成と考えられる．」を裏付ける結果となった．

この絵葉書写真を用いた考察については，別の地区（旧別子・東平・端出場・山根・四阪島）についても同様の報告を考えている．現在，井上真治氏以外の方々からも，絵葉書のコピーを研究用にと提供していただいている．他にどれだけの絵葉書が個人宅に眠っているかは明らかでないが，郷土の風景を1枚でも多く後世に伝えるため，お手持ちの方がいれば，ぜひ御一報願いたい．

今回報告した絵葉書からは，新居浜市惣開周辺の明治末から昭和初期，つまり今まさに臨海工業地帯の形成が始まろうとしているその時代を見ることができた．四阪島の煙害問題も解決されない混沌とした時代，鉱業を母体として生まれた機械，化学，電力等の部門が試行錯誤しながら歩み始めていた．順風満帆ではなかったこの時代の辛苦が，後の住友グループ拡大の基盤をつくったのかもしれない．今後，惣開地域の産業史を辿る際，本稿がその一助となれば幸いである．

謝　辞

本稿を執筆するにあたり，井上真治氏には所蔵絵葉書を御提供いただき，また日本の鉱山絵葉書の概要について御教示いただいた．井上啓氏には，昭和初期の惣開周辺の状況や当時の思い出を御教示いただいた．愛媛県歴史文化博物館には，所蔵絵葉書（灘口コレクション）の撮影について御許可いただき，井上淳氏，平井誠氏には複写に御協力いただいた．小野喜久夫氏には，戦前・戦後の惣開通りについて御教示いただいた．口屋公民館には，惣開小学校の変遷について資料を御提供いただいた．桑原運輸株式会社 桑原涼一氏には，惣開における桑原回漕店の創業について御教示いただいた．河野義隆には，山田社宅建設に関する資料を御提示いただくとともに，私見を御教示いただいた．白川幸子氏には，幼少期を過ごした昭和10年頃の惣開通りについて御教示いただくとともに，惣開通りの図面起こしに御協力いただいた．神野裕之氏には，有用な資料を御提供いただくとともに，昭和初期の情勢について御教示いただいた．住友化学株式会社には，住友化学歴史資料館の資料調査に御協力いただくとともに，写真の使用について御許可いただいた．住友共同電力株式会社には，写真の使用について御許可いただいた．住友金属鉱山株式会社には，東予工場の取材及び写真の公開について御許可いただいた．住友史料館には，明治期の写真及び大正期の地図の使用について御許可いただくとともに，末岡照啓氏には，絵葉書原写真の所蔵の有無について御回答いただき，また別子銅山絵葉書の作成年代推定基準等について御教示いただいた．住友別子病院には，大正・昭和初期の写真の使用について御許可いただいた．株式会社大正堂書店 鈴木繁久氏には，絵葉書の発行に関しての資料の探索に御協力いただいた．田中昌一氏には，四阪島で製造されていたカラミレンガについて御教示いただいた．坪井利一郎氏には，草稿を御校閲，御助言いただいた．財団法人東予産業創造センター 安孫子尚正氏には，有用な情報を御提供いただいた．灘口慎之氏には，寄託されている絵葉書の撮影・調査について御快諾いただいた．新居浜市企画部別子銅山文化遺産課 横井邦明氏には，調査全般にご協力いただくとともに，草稿を御校閲いただいた．新居浜市建設部都市計画課には，地図の使用について御許可いただいた．新居浜市生涯学習大学の博物館講座受講者の皆様には，昭和初期の惣開の情勢について御教示いただいた．新居浜市広瀬歴史記念館 久葉裕可氏には，絵葉書原写真の所蔵の有無について御回答いただくとともに，有用な情報を御提供いただいた．新居浜市立惣開小学校には，明治・大正期の写真の使用について御許可いただいた．別子銅山記念館には，明治・大正・昭和初期の写真や地図の使用について御許可いただくとともに，井上保雄氏及び青木礎氏には，絵葉書原写真の所蔵の有無について御回答いただき，また写真の撮影年推定に御協力いただいた．真鍋久仁氏には，戦前・戦後の惣開通りについて御教示いただいた．宮瀬温子氏には，資料の収集に御協力いただいた．村上春夫氏には，昭和初期の山田社宅周辺の状況について御教示いただいた．山川静雄氏には，九月会発行の古記録を御提供いただいた．以上の御協力いただいた皆様に，心より深謝の意を表する．

注

[1] 郵政省郵務局郵便事業史編纂室．郵便創業120年の歴史．株式会社ぎょうせい，1991，p.103.
[2] 郵政省郵務局郵便事業史編纂室．郵便創業120年の歴史．株式会社ぎょうせい，1991，p.115.
[3] 郵政省．郵政百年のあゆみ．郵政省．財団法人逓信協会，1971，p.88.
[4] 別子銅山記念館 青木礎氏による
[5] 井上真治．日立鉱山の絵葉書－日本の鉱山絵葉書・第2集－．日本地学研究会・地学研究編集委員会，2005，p.18.
[6] 井上真治．日立鉱山の絵葉書－日本の鉱山絵葉書・第2集－．日本地学研究会・地学研究編集委員会，2005，p.18.
[7] 住友史料館 末岡照啓氏による
[8] 新居浜市広瀬歴史記念館 久葉裕可氏による
[9] 別子銅山記念館 青木礎氏による
[10] 茅原氏寄贈写真は，平成20年当館が寄贈をうけた資料である．昭和20年代から茅原氏の自宅で保管されていた貴重な明治期の写真（61点）を譲り受けた．住友史料館報 第28・29・30号により，当該資料の原写真は住友史料館他の所蔵アルバムに貼付されていることが分かっている．
[11] 住友化学株式会社．“会社概要”住友化学株式会社．2010-05-25．http://www.sumitomo-chem.co.jp/japanese/company/gaiyou.html,（参照2010-11-10）.
[12] 住友化学工業株式会社．住友化学工業株式会社史．住友化学工業株式会社．1981，p.28.
[13] 住友化学工業株式会社．住友化学工業株式会社史．住友化学工業株式会社．1981，pp.23-26.
[14] 住友化学工業株式会社．住友化学工業株式会社史．住友化学工業株式会社．1981，p.27.
[15] 住友化学工業株式会社．住友化学工業株式会社史．住友化学工業株式会社．1981，p.28.
[16] 住友化学工業株式会社．住友化学工業株式会社史．住友化学工業株式会社．1981，p.33.
[17] 住友化学工業株式会社．住友化学工業株式会社史．住友化学工業株式会社．1981，p.48.
[18] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.171.
[19] 若宮の何でも語る会．若宮校区内の昔ばなし．新居浜市立若宮公民館，2008，p.21.
[20] 井上啓氏による
[21] 白石雅雄．ふるい道をふむ．p.41.
[22] 愛媛県歴史文化博物館の資料目録第15集「灘口コレクション」において公開されている．
[23] 住友重機械工業株式会社．“企業情報”住友重機械工業株式会社．http://www.shi.co.jp/company/index.htm,（参照2010-11-25）.
[24] 二ノ宮馨．“別子銅山への電気導入について”山村文化第三号．山村研究会，1996，p.9.
[25] 住友重機械労働組合．住友重機械労働組合十年史“明日を拓く”．住重労組十年史編集委員会．倉敷印刷株式会社，1983，p.33.
[26] 住友重機械労働組合．住友重機械労働組合十年史“明日を拓く”．住重労組十年史編集委員会．倉敷印刷株式会社，1983，p.33.
[27] 住友重機械労働組合．住友重機械労働組合十年史“明日を拓く”．住重労組十年史編集委員会．倉敷印刷株式会社，1983，p.33.
[28] 住友重機械労働組合．住友重機械労働組合十年史“明日を拓く”．住重労組十年史編集委員会．倉敷印刷株式会社，1983，p.33.
[29] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.172.
[30] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.172.
[31] 別子銅山記念館．別子鉱山鉄道略史．別子銅山記念館，1978，p.84.
[32] 白川幸子氏による
[33] 別子銅山記念館．別子鉱山鉄道略史．別子銅山記念館，1978，p.84.
[34] 住友共同電力株式会社．創業50周年記念誌「春風秋雨」．住友共同電力株式会社，1977，p.12.
[35] 井上啓氏による
[36] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史上巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.337.
[37] 新居浜市史編纂委員会．新居浜市史．愛媛県新居浜市，1980，p.756.
[38] 新居浜市立惣開小学校創立百周年記念事業協賛会．創立百周年記念誌惣開．新居浜市立惣開小学校創立百周年記念事業協賛会，1996，101.pp.
[39] 若宮の何でも語る会．若宮校区内の昔ばなし．新居浜市立若宮公民館，2008，p.37.
[40] 住友化学工業株式会社．住友化学工業株式会社史．住友化学工業株式会社．1981，p.28.
[41] “新居浜郵便局”ウィキペディア．http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B0%E5%B1%85%E6%B5%9C%E9%83%B5%E4%BE%BF%E5%B1%80#cite_note-0,（参照2010－06－07）.
[42] 末岡照啓．“明治三十一年の別子鉱山写真帳と写真師光村利藻”．住友史料館報住友史料館，1999，第30号，P.29.
[43] 別子銅山記念館．別子鉱山鉄道略史．別子銅山記念館，1978，p.84.
[44] 別子銅山記念館．別子鉱山鉄道略史．別子銅山記念館，1978，p.84.
[45] 久葉裕可．「石碑が語る工都新居浜の発祥」愛媛温故紀行．財団法人愛媛地域政策研究センター，2003，p.112.
[46] 別子銅山記念館．別子鉱山鉄道略史．別子銅山記念館，1978，p.84.
[47] 住友共同電力株式会社．創業50周年記念誌「春風秋雨」．住友共同電力株式会社，1977，p.11.
[48] 住友史料館 末岡照啓氏による
[49] 住友史料館 末岡照啓氏による
[50] 住友化学工業株式会社．住友化学工業株式会社史．住友化学工業株式会社．1981，p.16.
[51] 住友共同電力株式会社．創業50周年記念誌「春風秋雨」．住友共同電力株式会社，1977，p.12.
[52] 住友共同電力株式会社．創業50周年記念誌「春風秋雨」．住友共同電力株式会社，1977，p.12.
[53] 住友化学工業株式会社．住友化学工業株式会社史．住友化学工業株式会社．1981，p.28.
[54] 住友化学工業株式会社．住友化学工業株式会社史．住友化学工業株式会社．1981，p.28.
[55] 住友化学工業株式会社．住友化学工業株式会社史．住友化学工業株式会社．1981，p.30.
[56] 住友化学工業株式会社．住友化学工業株式会社史．住友化学工業株式会社．1981，p.30.
[57] 郵政省郵務局郵便事業史編纂室．郵便創業120年の歴史．株式会社ぎょうせい，1991，p.112.
[58] 郵政省郵務局郵便事業史編纂室．郵便創業120年の歴史．株式会社ぎょうせい，1991，pp.222-223.
[59]「□」は「前」だと思われる．
[60] 郵政省郵務局郵便事業史編纂室．郵便創業120年の歴史．株式会社ぎょうせい，1991，p.129.
[61] 郵政省郵務局郵便事業史編纂室．郵便創業120年の歴史．株式会社ぎょうせい，1991，p.142.
[62] 白川幸子氏による
[63] 住友化学工業株式会社．住友化学工業株式会社史．住友化学工業株式会社．1981，p.31.
[64] 住友化学工業株式会社．住友化学工業株式会社史．住友化学工業株式会社．1981，p.33.
[65] 住友化学工業株式会社．住友化学工業株式会社史．住友化学工業株式会社．1981，p.33.
[66] 住友化学工業株式会社．住友化学工業株式会社史．住友化学工業株式会社．1981，p.48.
[67] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.172.
[68] 住友共同電力株式会社．住友共同電力のあゆみ．住友共同電力株式会社，2001，P.41.
[69] 住友共同電力株式会社．住友共同電力のあゆみ．住友共同電力株式会社，2001，P.46.
[70] 住友共同電力株式会社．住友共同電力のあゆみ．住友共同電力株式会社，2001，P.45.
[71] 住友共同電力株式会社．住友共同電力のあゆみ．住友共同電力株式会社，

2001，P.45.
[72] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.75.
[73] 別子銅山記念館．別子鉱山鉄道略史．別子銅山記念館，1978，pp.10-11.
[74] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.75.
[75] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.76.
[76] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.115.
[77] 逸話集「鷲尾勘解治翁」による
[78] 河野義隆氏による
[79] 別子銅山記念館．別子鉱山鉄道略史．別子銅山記念館，1978，p.11.
[80] 平塚正俊．別子開坑二百五十年史話．住友本社庶務課．株式会社住友本社，1941，p.460.
[81] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.153.
[82] 別子銅山記念館．別子鉱山鉄道略史．別子銅山記念館，1978，p.11.
[83] 末岡照啓．別子銅山が育んだ社宅街．新居浜市広瀬歴史記念館, 2010, p.4.
[84] 村上春夫氏による
[85] 村上春夫氏による
[86] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.90.
[87] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.169.
[88] 住友金属鉱山株式会社．“企業情報”住友金属鉱山株式会社．2010-3-31. http://www.smm.co.jp/corp_info/gaiyo.html，（参照2010-12-24）
[89] 大正堂書店　鈴木繁久氏による
[90] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.90.
[91] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.169.
[92] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.213.
[93] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.314.
[94] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.90.
[95] 株式会社四阪製錬所による
[96] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.55.
[97] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.154.
[98] 住友金属鉱山株式会社．住友別子鉱山史下巻．住友金属鉱山株式会社，1989，p.360.
[99] 新居浜市別子銅山文化遺産課による
[100] 田中昌一氏による
[101] 住友別子病院．住友別子病院百年のあゆみ．住友別子病院，1989，p.140.
[102] 住友別子病院．住友別子病院百年のあゆみ．住友別子病院，1989，p.146.
[103] 住友別子病院．住友別子病院百年のあゆみ．住友別子病院，1989，p.141.
[104] 住友別子病院．住友別子病院百年のあゆみ．住友別子病院，1989，p.141.
[105] 井上啓氏による
[106] 住友別子病院．住友別子病院百年のあゆみ．住友別子病院，1989，p.20.
[107] 住友別子病院．住友別子病院百年のあゆみ．住友別子病院，1989，pp.37-40.
[108] 若宮の何でも語る会．若宮校区内の文化財巡り．若宮の何でも語る会．2008，p.29.
[109] 白川幸子氏による
[110] 井上啓氏による
[111] 真鍋久仁氏による
[112] 小野喜久夫氏による
[113] 末岡照啓．別子銅山が育んだ社宅街．新居浜市広瀬歴史記念館, 2010, p.3.
[114] 仁丹株式会社による
[115] 住友銀行史編纂委員会．住友銀行百年史．住友銀行，1998，p.824.
[116] 住友銀行史編纂委員会．住友銀行百年史．住友銀行，1998，p.825.
[117] 末岡照啓．別子銅山が育んだ社宅街．新居浜市広瀬歴史記念館, 2010, p.3.
[118] 現在の三井住友建設株式会社の前身
[119] 新居浜市別子銅山文化遺産課による
[120] 住友化学株式会社による
[121] 住友化学株式会社による
[122] 桑原運輸株式会社 桑原涼一氏による
[123] 白川幸子氏による
[124] “新居浜郵便局”ウィキペディア．http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B0%E5%B1%85%E6%B5%9C%E9%83%B5%E4%BE%BF%E5%B1%80#cite_note-0，（参照2010-11-15）.
[125] 真鍋久仁氏による
[126] 白川幸子氏による
[127] 井上真治．日立鉱山の絵葉書－日本の鉱山絵葉書・第2集－．日本地学研究会・地学研究編集委員会，2005，p.18.